

ASUS® MEW

Socket 370 Intel® 810 マザーボード

ユーザーマニュアル

注意事項

マニュアルのいずれの個所も、製品およびソフトウェアに記載されているものを含め、購入者がバックアップの目的で利用することを除き、ASUSTeK COMPUTER社の許可なしに、複製・複写・転載・修正もしくは他国語への翻訳などはできません。

ASUSは、明示・黙示を問わず、いかなる保証もなく、本マニュアルを現状のまま提供します。また、市場状況への適応、特定目的への適応のため本マニュアルを改訂することもあります。いかなる場合でも、ASUS社及びその責任者、役員、従業員、代理店は、いかなる間接的、二次的必然的な損害(利益の損失、ビジネス上の損失、データの損失、営業妨害などを含む)に対し、たとえASUS社が本書もしくは製品中で以上のような損害の可能性を指摘しているかどうかに関わらず責任を負いません。

ASUSが明示に認めたものを除き、(1)本製品の修理・改造などを行った場合、(2)本製品のシリアル番号が確認されない場合には、製品保証またはサービスは致しません。

このマニュアルに書かれている製品名および社名は、それぞれの会社の登録商標もしくは著作権です。製品・社名を識別するために使用するもので、権利を侵害するものではありません。

- QuickStart, JumperFreeは、ASUSTeK Computer 社の商標です。
- Intel, LANDesk, Pentiumは、Intel 社の登録商標です。
- IBM, OS/2は、International business machine 社の登録商標です。
- Symbiosは、Symbios Logic 社の登録商標です。
- Windows, MS-DOSは、Microsoft 社の登録商標です。
- AdobeとAcrobatは、Adobe Systems 社の登録商標です。

製品名と改訂番号は、製品に印刷されています。マニュアルの改訂版は、マニュアルの改訂番号でピリオドの前後に数字で示されている製品設計のためにリリースされます。マニュアルのアップデートは、マニュアル改訂番号の第3数字により表されます。

マニュアル、BIOS、ドライバー、製品リリース情報は、<http://www.asus.com.tw>もしくは、本書中のコンタクトインフォメーション記載の連絡先から入手することができます。

本書に含まれる仕様や情報は、情報提供のために供給されるものです。予告なく改変する場合がありますが、改変はASUSの責務ではありません。ASUSは、製品、ソフトウェアを含み本書中に間違いがあっても、責任はとりません。

Copyright © 1999 ASUSTeK COMPUTER INC. 不許複製。

製品名：	ASUS MEW
マニュアルリビジョン：	1.06 J386
リリース日付：	1999年7月

ASUSへの連絡

ASUSTeK COMPUTER INC. (Asia-Pacific)

マーケティング

住所: 150 Li-Te Road, Peitou, Taipei, Taiwan 112
電話: +886-2-2894-3447
Fax: +886-2-2894-3449
Email: info@asus.com.tw

テクニカルサポート

電話(英語): +886-2-2894-3447 ext. 706
電話(中国語): +886-2-2894-3447 ext. 111
Fax: +886-2-2895-9254
Email: tsd@asus.com.tw
Newsgroup: news2.asus.com.tw
WWW: www.asus.com.tw
FTP: ftp.asus.com.tw/pub/ASUS

ASUS COMPUTER INTERNATIONAL (America)

マーケティング

住所: 6737 Mowry Avenue, Mowry Business Center, Building 2
Newark, CA 94560, USA
Fax: +1-510-608-4555
Email: info-usa@asus.com.tw

テクニカルサポート

Fax: +1-510-608-4555
BBS: +1-510-739-3774
Email: tsd-usa@asus.com.tw
WWW: www.asus.com
FTP: ftp.asus.com.tw/pub/ASUS

ASUS COMPUTER GmbH (Europe)

マーケティング

住所: Harkort Str. 25, 40880 Ratingen, BRD, Germany
電話: 49-2102-445011
Fax: 49-2102-442066
Email: sales@asuscom.de

テクニカルサポート

Hotline: 49-2102-499712
BBS: 49-2102-448690
Email: tsd@asuscom.de
WWW: www.asuscom.de
FTP: ftp.asuscom.de/pub/ASUSCOM

目次

1. はじめに	7
1.1 マニュアルの構成	7
1.2 梱包内容チェックリスト	7
2. 特徴	8
2.1 ASUS MEW マザーボード	8
2.1.1 仕様	8
2.1.2 仕様-オプション部品	9
2.1.3 性能	10
2.1.4 インテリジェンス	11
2.2 ASUS MEW パーツ定義	12
2.3 ASUS MEW 部品配置図	13
3. ハードウェアセットアップ	14
3.1 マザーボードレイアウト	14
3.2 レイアウト目次	15
3.3 ハードウェアセットアップ手順	17
3.4 マザーボード設定	17
3.5 システムメモリー (DIMM)	24
3.5.1 DIMMについて	24
3.5.2 DIMMメモリーのインストール	25
3.6 中央処理装置 (CPU)	26
3.7 拡張カード	27
3.7.1 拡張カードインストール手順	27
3.7.2 拡張カードへのIRQ割り当て	27
3.7.3 ISAカードへのDMAチャンネル割り当て	28
3.7.4 オーディオモデムライザー (AMR) スロット	28
3.8 外部コネクタ	29
3.9 電源投入手順	43
4. BIOSセットアップ	44
4.1 BIOSの管理とアップデート	44
4.1.1 コンピューターシステムを最初に使用するとき	44
4.1.2 BIOSアップデート手順	45
4.2 BIOSセットアッププログラム	47
4.2.1 BIOS Menu Bar	48
4.2.2 Legend Bar	48
4.3 Mainメニュー	50
4.3.1 Primary & Secondary Master/Slave	51
4.4 Advancedメニュー	56
4.4.1 Chip Configuration	58
4.4.2 I/O Device Configuration	61
4.4.3 PCI Configuration	63
4.4.4 Shadow Configuration	66

目次

4.5	Powerメニュー	67
4.5.1	Power Up Control	69
4.5.2	Hardware Monitor	71
4.6	Bootメニュー	72
4.7	Exitメニュー	74
5.	ソフトウェアセットアップ	77
	ASUS Smart Motherboard Support CD.....	77
	ソフトウェアセットアップ内容	78
	サポートCD内容説明	79
	Operating Systems.....	81
5.1	Intel LANDesk Client Manager (LDCM).....	82
5.2	ASUS PC Probe	83
5.3	ASUS Update.....	84
5.4	Driver	85
5.4.1	Network Driver Setup(LANモデルのみ)	85
5.4.2	VGA Driver Setup.....	86
5.4.3	Audio Driver Setup(オーディオモデルのみ)	87
5.5	Other	88
5.5.2	INF Update Utility for 810 Chipset	88
5.5.3	Intel Security Controller Driver.....	89
5.5.4	YAMAHA S-YXG50	90
5.5.5	Microsoft DirectX 6.0 Driver	91
5.5.6	PC-cillin 98 V4.06	92
5.5.7	Adobe Acrobat Reader V4.0.....	93
5.6	ASUS DMI Utility	94
5.7	Flash BIOS Utility (DOS)	95
5.8	Uninstalling Programs	96
6.	ソフトウェアリファレンス	97
6.1	ASUS PC Probe	99
6.2	ASUS Update.....	105
6.3	Display Properties	107
6.4	YAMAHA S-YXG50	111
6.5	Desktop Management Interface (DMI).....	113
6.6	ハードウェア情報	116
7.	APPENDIX	117
7.1	用語集	117

FCC & DOC COMPLIANCE

Federal Communications Commission Statement

This device complies with FCC Rules Part 15. Operation is subject to the following two conditions:

- This device may not cause harmful interference, and
- This device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with manufacturer's instructions, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Re-orient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment to an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

WARNING! Any changes or modifications to this product not expressly approved by the manufacturer could void any assurances of safety or performance and could result in violation of Part 15 of the FCC Rules.

Canadian Department of Communications Statement

This digital apparatus does not exceed the Class B limits for radio noise emissions from digital apparatus set out in the Radio Interference Regulations of the Canadian Department of Communications.

This class B digital apparatus complies with Canadian ICES-003

1. はじめに

1.1 マニュアルの構成

本マニュアルは次のセクションに分かれています：

- | | |
|-----------------|----------------------|
| 1) はじめに | マニュアルの情報とチェックリスト |
| 2) 特徴 | 本製品に関する情報と仕様 |
| 3) ハードウェアセットアップ | マザーボードのセットアップ |
| 4) BIOSセットアップ | BIOSソフトウェアのセットアップ |
| 5) ソフトウェアセットアップ | 付属サポートソフトウェアセットアップ情報 |
| 6) ソフトウェアリファレンス | 付属サポートソフトウェアの参考資料 |
| 7) APPENDIX | オプション機器とリファレンス |

1.2 梱包内容チェックリスト

製品梱包内容を確認してください。破損しているものや不足しているものがあれば、販売店に連絡してください。

- (1) ASUSマザーボード
- (1) 内部UltraDMA/33機器用40ピンリボンケーブル
- (1) 内部UltraDMA/66・DMA/33機器用80ピンリボンケーブル
(注：80ピンリボンケーブルは40ピンコネクタに接続します)
- (1) 5.25インチ・3.5インチフロッピードライブ用リボンケーブル
- (1) 予備のジャンパーキャップ
- (1) ドライバー・ユーティリティCD
- (1) ユーザーマニュアル(本書)

- I/Oシールド(LANモデルのみ)
- 金具付きシリアルCOM2コネクタ(LCDモデル以外)
- 金具付きLCDパネル・シリアルCOM2コネクタ(LCDモデルのみ)
- ASUS IrDA準拠赤外線モジュール(オプション)
- ASUS Consumer Infraredセット(オプション)

2. 特徴

2.1 ASUS MEW マザーボード

ASUS MEWマザーボードは、小さなパッケージに多くの機能を実現し、ユーザーの厳しい要求に応じるよう設計されています。では、ASUS MEW マザーボードのスマートな特徴を説明します。

2.1.1 仕様

- **最新のIntel Socket370プロセッサをサポート!** ソケット370/Plastic Pin Grid Array (PPGA)パッケージIntel Celeron プロセッサをサポート。
- **最新Intel 810-DC100 チップセット!** 100MHz FSB対応Intel 810-DC100チップセット(GMCH/ICH)、統合4MB、32ビット100MHz SDRAM ディスプレイキャッシュコントローラー24ビット230MHz RAMDACグラフィックスコントローラーを搭載しています。
- **統合型グラフィックス!** コントローラーは、3Dハイパーパイプラインアーキテクチャー、パラレルデータ処理/圧縮、正確なピクセル書き込み、フル2Dハードウェアアクセラレーション、動画ビデオ処理をサポートします。4 MBのオンボードSDRAMディスプレイキャッシュで、3Dグラフィックスで最高1024x768x16bit色、2Dで最高1600x1200x8bit色を実現します。
- **ASUSグラフィックスドライバー!** ASUSカスタムグラフィックスドライバーを使用すると、標準のグラフィックスドライバーより12%パフォーマンスが向上します(2DハイエンドグラフィックスWinMark)。ASUSカスタムグラフィックスドライバーを使用すると、より高機能で、高リフレッシュレート・高解像度選択が実現します。
- **多彩なメモリーサポート!** DRAMコントローラーは、非対称アドレス指定をサポートし、3本のDIMMソケットには、インテルPC100準拠SDRAM(16、32、64、128、256 MB)を最高512MBまでサポートします(最大4サイドまで)。
- **JumperFree™ モード!** JumperFree™ モードを有効にすると、BIOS設定メニューで周波数・Vcore電圧を指定することができ、オーバークロック指定も簡単です。ジャンパーの代わりに使いやすいディップスイッチを搭載しました。手動でプロセッサの外部周波数を指定することができます。
- **スマート拡張スロット!** 本製品には、32ビットPCI(rev2.2)5本+16ビットISA2本、6PCI+1ISA、6PCIの3タイプがあります。PCIは133MB/秒最大スループットをサポートします。各PCIスロットは、バスマスタPCIカード(SCSI・LANカードなど)をサポートします。
- **Latest Low Pin Count Multi-I/O:** 高速のUART互換シリアルポート2つとEPP/ECP対応パラレルポート1つを搭載しています。
- **統合化IDE!** コントローラーは、UltraDMA/66で最高66MB/s、UltraDMA/33で最高33MB/s、PIO Mode 4で最大17MB/sをサポートします。
- **デスクトップ管理インターフェイス(DMI)V2.3!** BIOSによるDMIをサポートし、ハードウェアが高い互換性で標準プロトコルを使用し、互いに通信することができます(DMIの有効な部品が必要です)。
- **周辺機器によるシステム起動!** Wake-On-LAN、Wake-On-Ring、キーボードによる起動、BIOSによる起動、赤外線リモートコントロール起動をサポートします。

2. 特徴

- **AMRスロット!** オーディオモデムライザー (AMR) スロットは、コストパフォーマンスの高いオーディオモデムライザーカードをサポートします。
- **24時間無休の侵入検出!** 筐体開放検出回路は、LDCM (本マザーボードでは近い将来に対応) に筐体パネル開放イベントを記録することができます。通常電源が取り外されても、オンボードバッテリーで検出回路をサポートします。また、新規設計でRTCよりバッテリードレインが低いです!
- **ファームウェアハブ!** 安全保護や最新の電源管理機能をサポートします。
- **PC健康状態モニター!** 付属のASUS PC ProbeやインテルLDCM (本マザーボードでは、将来v6.0で実現) でPC健康状態を管理することができます。
- **拡張ACPI・対ブートウイルスプロテクト機能!** Windows 98対応拡張ACPI搭載プログラム可能BIOS (フラッシュEEPROM)、内蔵ファームウェアに基づくウイルスプロテクトと実質上自動セットアップとなる機器の自動検出機能を搭載しています。
- **スマートBIOS!** 4Mbファームウェアで、本マザーボードを管理保護する使いやすい新インターフェイスを提供します。Vcore・CPU/SDRAM周波数調整、ブートブロック書き込み保護、HD/SCSI/MO/ZIP/CD/Floppyブート選択機能を搭載しています。ハードウェアランダムナンバージェネレーターは、データを保護し、インターネットデータ転送を安全にする新しいソフトウェアをサポートします。
- **Wired for Management (WfM) V2.0!** ネットワーク環境でのリモートモニター、診断、管理 (Alert-On-LAN) を実現します。

2.1.2 仕様-オプション部品

次のオンボード部品は、購入時オプションです。

- **スマートオーディオ!** ソフトウェアオーディオ・ハードウェアAC'97 V2.1 コーデック準拠・アナログ3Dサウンド回路設計は、7 kHzから48 kHzまでのサンプリングレートをサポートします。オーディオ出力は、スペースの確保、コスト低減、外部のスピーカーとの干渉を避けるため、筐体に取り付けられた内部スピーカーに接続することもできます。
- **3Dポジションオーディオ!** インタラクティブに臨場感あるサウンドを実現時、3Dバーチャル経験できる、リアリズム新次元へとユーザーを誘います。ウェブテーブル合成を利用できるMIDIで、音楽の再生産も実現できます。
- **スマートネットワーク!** ファストイーサネットコントローラー (10BASE-T/100BASE-TX対応) インテル82559搭載モデルがあります。TCO機能をサポートしています。
- **スペース節約設計!** デジタルフラットパネル (DFP) インターフェイスで、デジタルフラットパネルをPCに直結することができます (アナログフラットパネルは、VGA出力コネクタに接続します)。このインターフェイスは、デジタル/アナログ相互変換による画像品質低下を排除し、シャープで明るいイメージを転送することができます。
- **混雑した配線さようなら!** 本製品に搭載されている赤外線転送機能 (IR) は、オプションのリモートコントロールパッケージを使い、外部機器やリモートコントローラーなどとのワイヤレスデータ転送を実現します。

2. 特徴

2.1.3 性能

- **超高性能!** IDEバスマスタコントローラーは4台のIDE機器を2チャンネルでサポートし、ボード上には、2つのコネクタを搭載しています。UltraDMA/66、UltraDMA/33(IDE DMAモード2)、PIOモード3/4、そして、テープバックアップ装置、CD-ROM、CD-R/RW、LS-120ドライブのようなEIDE機器をサポートします。
- **デュアルスピード!** システムメモリー100 MHz・66 MHz稼働に対し、CPU周波数も66 MHz・100 MHz稼働を切り替えることができます(100MHzCPUを66 MHzSDRAMで使用することはできません)。この非同期設計は、共有メモリー構成下でVGA性能を最適化することができます。もちろん、最高性能を發揮するため100MHz/100 MHz同期稼働(ホスト/DRAMクロック)を推奨します。
- **IDE転送速度2倍/4倍!** UltraDMA/33バスマスターIDEでIDE転送レートは最高33MB/s、UltraDMA/66の技術で最高66MB/sを実現します。既存のATA-2 IDE仕様と互換性があるので、現在のIDE機器をアップグレードする必要がありません。
- **コンカレントPCI!** コンカレントPCIで、PCIマスターバスからメモリー・CPUにマルチPCI転送することができます。
- **SDRAM最適化!** ASUSスマートシリーズマザーボードは、新世代メモリーSDRAMをサポートします。PC100SDRAMを使用すると最大800MBデータ転送が実現します。
- **ACPI対応!** ASUSスマートシリーズマザーボードはACPI(Advanced Configuration and Power Interface)対応です。ACPIは、将来のオペレーティングシステム(OS)がサポートするOSによる直接の節電機能で、従来のものより節電能力が高いです。OSで実行されるこの機能を搭載することで、PCは24時間電源をオンにしても、エネルギー消費を最低限度に押さえることができます。完全にACPIを利用するには、Windows 98のようなACPIをサポートするOSの使用が必要です。
- **サスペンド・ゴー!** 作業を中断する際の状態を最低電力消費で維持し、中断直前の状態でシステムをすばやく起動することができる、RAMへのサスペンド(STR)機能を搭載しています。(STRを使用するには、STRをサポートするOSが必要です。また、STRはISAカードをサポートしません。復帰後にISAは機能しません)
- **PC99準拠!** 本製品は、BIOS・ハードウェアレベルで、PC '99規格を満たしています(ISAモデルは除く)。PC '99規格は、以下に説明するようなシステムと部品に関する高水準事項を目標としています：システムコンポーネントと32ビットデバイスドライバを構成・管理するプラグアンドプレイ互換性と電源管理機能をサポートすること。PC '99では、彩色コネクタ・説明アイコンが判別を簡単にするために要求されています。
- **最高オーディオ品質!** オーディオコーデックAC'97 DAC/ADCは、オーディオ品質を向上させ、SN比(信号対雑音比)+90dBを実現するためノイズを削減します。これらの機能で、音声合成・認識機能が大幅に改善されます。
- **高性能グラフィックス!** 統合化動画処理機能で、MPEG1・MPEG2ビデオがスムーズに再生できます。ファスト3Dグラフィックスエンジンで、ゲームもエキサイティングします。

2. 特徴

2.1.4 インテリジェンス

- **ファン状態モニター・警告機能!** システムのオーバーヒートとそれによる損傷を防ぐため、CPU・電源・システムファンの回転数などをモニターすることができます。ファンは、通常のリ回転数範囲内で設定し、その範囲からずれると警告音を発するように設定します。
- **温度モニター・警告機能!** システム過熱と損傷を防ぐため、本マザーボードは、ソケット370のプロセッサ温度検知・自動保護機能をサポートします。
- **電圧モニター・警告機能!** 安定してマザーボード部品に電流を供給数するために、システムのリ電圧を監視します。電圧モニターは、これからのCPUを完全活用するには必須の機能です。
- **システムリソース警告機能!** (将来のLDCM v6.0が必要) 現在のWindows 98やWindows NT、OS/2は、多くのメモリーやハードディスク容量などのリソースを必要とします。システムリソースモニターが常にリソースを監視し、アプリケーションのハングアップ前に警告します。
- **2つの機能を持つ電源ボタン!** 電源ボタンをスタンバイ(別名: サスペンド/スリープ)ボタンとするか、ソフトオフ(詳細は、ATX電源スイッチの箇所を参照)ボタンとするかをBIOSにより指定することができます。BIOS設定に関係なく、4秒以上の間電源ボタンを押すと、ソフトオフモードに入ります。
- **リモートリングオン(モデムが必要です)!** コンピューターが内部/外部のモデムにより電源オンすることができる機能です。この機能を利用すると、ユーザーは自分のコンピューターに世界中の至る所からアクセスし、情報を得ることができます!
- **メッセージLED(ACPI対応OSが必要です)!** 筐体に取り付けられたLEDが情報を表示します。LEDの表示状態を見ることで、簡単にシステムの状態を知ることができるのです。
- **周辺機器による電源オン!** キーボード/マウス 電源オンは、キーボードやマウスの操作で電源をオンにするもので、BIOS設定でその有効/無効を指定することができます。

2. 特徴

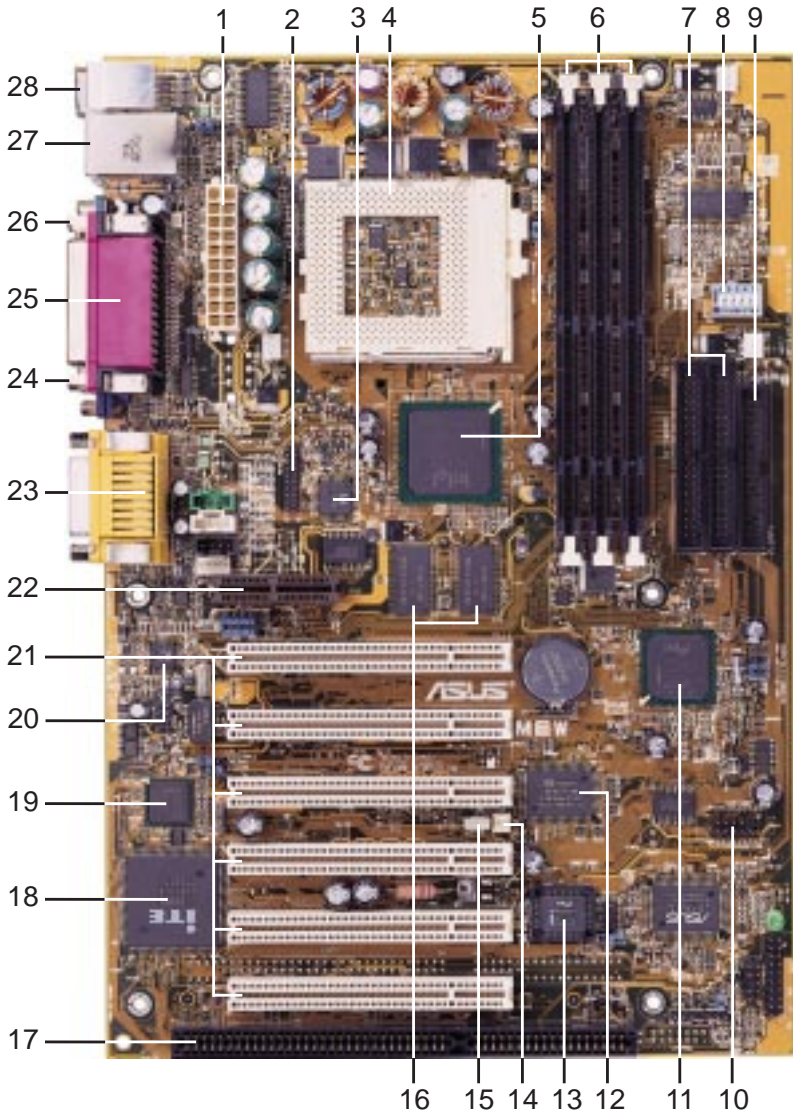
2.2 ASUS MEW パーツ定義

次ページのマザーボード部品の説明です。

- 1 ATX電源に接続するATX電源コネクタ
- 2 LCDコネクタセット用LCD端子(LCDモデルのみ)
- 3 LCDチップセット(LCDモデルのみ)
- 4 Intel Celeron 370プロセッサ用ソケット370
- 5 Intel 810-DC100(GMCH-DC100)統合化グラフィックスチップセット
- 6 3つのDIMMソケット
- 7 プライマリ/セカンダリ IDEコネクタ
- 8 機能設定ディップスイッチ
- 9 フロッピーディスクドライブコネクタ
- 10 シリアルCOM2端子
- 11 Intel I/Oコントローラハブ(ICH)
- 12 マルチI/Oチップセット
- 13 4Mbitファームウェアハブ(プログラム可能BIOS)
- 14 Wake-On-Ring コネクタ
- 15 Wake-On-LAN コネクタ
- 16 統合AGP VGA用高速4MB SDRAM
- 17 1/2本のISAスロット(ISAモデルのみ)
- 18 PCI - ISAブリッジ(ISAモデルのみ)
- 19 Intel 82559 ファストイーサネットチップセット(LANモデルのみ)
- 20 AC'97 V2.1オーディオコーデック
- 21 5/6本のPCIスロット(購入時オプション)
- 22 オーディオモデムライザー(AMR)コネクタ
- 23 ジョイスティック、MIDI、ライン出力、ライン入力、マイクコネクタ
- 24 VGAモニター出力コネクタ
- 25 パラレルコネクタ
- 26 シリアルCOM1コネクタ
- 27 LAN(RJ45)・USBコネクタ(LANはオプション)
- 28 PS/2マウス、PS/2キーボードコネクタ

2. 特徴

2.3 ASUS MEW 部品配置図

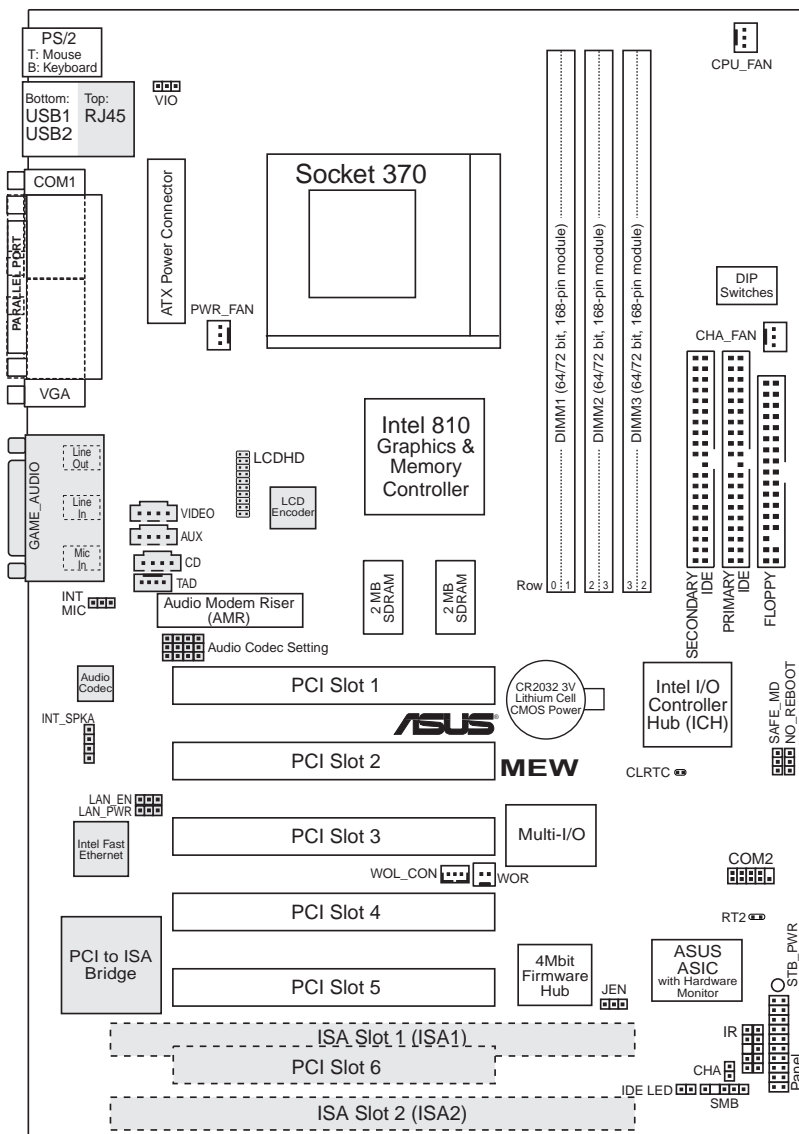


注：上図はISAモデルです。ISAスロットは、購買時オプションです。ISAなしモデルには6つのPCIスロットがあります。

3. ハードウェアセットアップ

3.1 マザーボードレイアウト

3. H/Wセットアップ
マザーボードレイアウト



(グレーの項目は、購買時オプションです。)

3. ハードウェアセットアップ

3.2 レイアウト目次

マザーボード設定

- | | |
|----------------|-------------------------------|
| 1) JEN | p.18 JumperFree™ モード(有効/無効) |
| 2) VIO | p.19 電圧I/O設定 (Normal/+3.66V) |
| 3) AUDIO CODEC | p.19 オンボードオーディオ設定(有効/無効) |
| 4) LAN_EN | p.20 オンボードLAN設定(有効/無効) |
| 5) LAN_PWR | p.20 オンボードLAN電源設定(ノーマル/スタンバイ) |
| 6) SAFE_MD | p.21 セーフモード(有効/無効) |
| 7) NO_REBOOT | p.21 自動タイムアウト再起動(有効/無効) |
| 8) DSW | p.22 CPU外部クロック(バス)周波数設定 |

拡張スロット

- | | |
|---------------------------------|------------------------------------|
| 1) DIMM1, DIMM2, DIMM3 | p.23 168ピン DIMMメモリーサポート |
| 2) Socket 370 | p.25 中央処理装置(CPU)ソケット |
| 3) ISA1, ISA2 | p.26 16ビット ISAバス拡張スロット(オプション) |
| 4) PCI1, PCI2, PCI3, PCI4, PCI5 | p.26 32ビット PCIバス拡張スロット(PCI6はオプション) |
| 5) AMR | p.28 オーディオモデムライザースロット |

コネクタ

- | | |
|---------------------------|--|
| 1) PS2KBMS | p.29 PS/2マウスコネクタ(6ピン メス) |
| 2) PS2KBMS | p.29 PS/2キーボードコネクタ(6ピン メス) |
| 3) USB | p.30 Universal Serial Busポート 1 & 2(4ピン メス X 2) |
| 4) PRINTER | p.30 パラレルポートコネクタ(25ピン メス) |
| 5) COM1 | p.30 シリアルポートCOM1 コネクタ(9ピン オス) |
| 6) VGA | p.31 モニター(VGA)出力コネクタ(15ピンメス) |
| 7) GAME_AUDIO | p.31 Joystick/MIDIコネクタ(15ピン メス)(オプション) |
| 8) GAME_AUDIO | p.31 オーディオポートコネクタ(1/8"メス X 3)
(オプション) |
| 9) RJ45 | p.31 ファストイーサネットポートコネクタ(RJ45)
(オプション) |
| 10) PRIMARY/SECONDARY IDE | p.32 プライマリ/セカンダリIDEコネクタ(40-1ピン X 2) |
| 11) FLOPPY | p.32 フロッピーディスクドライブコネクタ(34-1ピン) |
| 12) WOL_CON | p.33 Wake-On-LANコネクタ(3ピン) |
| 13) WOR | p.33 Wake-On-Ringコネクタ(2ピン) |
| 14) IDE LED | p.34 IDEアクセスLED(2ピン) |
| 15) CHA_, CPU_, PWR_FAN | p.34 筐体、CPU、電源 ファンコネクタ(3ピン X 3) |
| 16) VIDEO, AUX, CD, TAD | p.35 内部オーディオコネクタ(4ピン X 4)(オプション) |
| 17) INT_SPKA | p.35 内部スピーカーコネクタ(4ピン)(オプション) |
| 18) IR (CIR/SIR) | p.36 赤外線モジュールコネクタ(10-1ピン) |
| 19) COM2 | p.36 シリアルポートCOM2端子(10-1ピン) |
| 20) SMB | p.37 SMBusコネクタ(5-1ピン) |
| 21) LCDHD | p.37 デジタルLCD端子(20ピン)(オプション) |

3. ハードウェアセットアップ

22) INT MIC	p.38 内部マイクコネクタ(3ピン)
23) CHA	p.39 筐体開放コネクタ(2ピン)
24) ATXPWR	p.39 ATX電源コネクタ(20ピン)
25) SPEAKER (PANEL)	p.41 システム警告スピーカーコネクタ(4ピン)
26) KEYLOCK (PANEL)	p.41 キーボードロックスイッチ端子(2ピン)
27) PLED (PANEL)	p.41 システムパワーLED端子(3-1ピン)
28) RESET (PANEL)	p.41 リセットスイッチ端子(2ピン)
29) PWRSW (PANEL)	p.41 ATX電源/ソフトオフスイッチ 端子(2ピン)
30) SMI (PANEL)	p.41 SMIスイッチ端子(2ピン)
31) LED (PANEL)	p.41 システムメッセージLED(2ピン)

3. ハードウェアセットアップ

3.3 ハードウェアセットアップ手順

コンピューターを使う前に、次の手順に従ってインストールしてください。:

- マザーボード設定のチェック
- メモリーモジュールのインストール
- 中央処理装置 (CPU) のインストール
- 拡張カードのインストール
- リボンケーブル、電源装置などの配線 (ドライブ類の設置も含む)

3.4 マザーボード設定

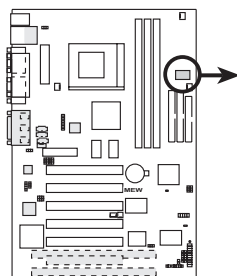
ここでは、ジャンパーやスイッチで本マザーボードの機能を設定する方法を説明します。

警告! コンピューターマザーボードや拡張カードは、非常に繊細な集積回路 (IC) チップを使用しています。静電気による損傷を防ぐため、作業するには次に示すような予防策を講じてください。

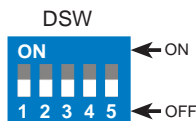
1. システム内部に触れる場合には、電源プラグを抜いてください。
2. コンピューター部品を扱う前には、接地されたリストストラップ (接地バンド) を使ってください。接地バンドがない場合には、安全に接地された物体、たとえば電源装置のケースの様な金属物体に両手を触れてください。
3. 部品はその端を持ち、ICチップ、端子、コネクタなどの部品に触れないでください。
4. 部品をシステムから分離するときは、必ず接地された静電気防止パッドの上か部品の入っていた袋の上に置いてください。

マザーボード機能設定 (DSW)

ジャンパー設定の他に、マザーボード機能のいくつかはディップスイッチで設定されます。白いブロックがスイッチの位置を表します。下の例はすべてのスイッチがオフの場合を示します。



MEW DIP Switches



1. Frequency Selection
2. Frequency Selection
3. Frequency Selection
4. Frequency Selection
5. Frequency Selection

3. ハードウェアセットアップ

1) JumperFree™モード (JEN)

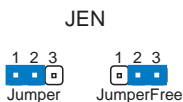
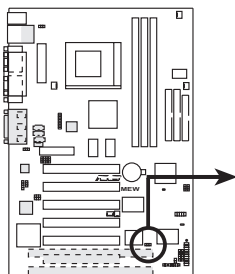
JumperFree™モードの有効/無効を設定します。JumperFree™モードで、プロセッサ設定をBIOSセットアップから行うことができますようになります(4.4 Advanced Menuを参照してください)。

注：JumperFree™モードでは、すべてディップスイッチ(DSW)をオフに設定してください。

設定

Disable (Jumper) [1-2] (default)
Enable (JumperFree) [2-3]

JEN



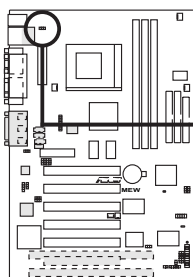
MEW JumperFree™ Mode Setting

3. ハードウェアセットアップ

2) 電圧I/O設定(VIO)

このジャンパーで、DRAM、チップセット、PCI、CPUのI/Oバッファに供給される電圧を選択します。オーバークロック動作に高い電圧が必要である場合を除き、初期設定値電圧を使用してください。

設定	VIO
Normal	[1-2] (default)
3.66V	[2-3]



MEW VIO Setting

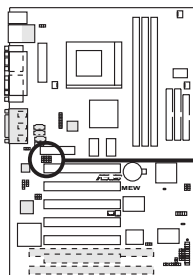


警告! 高い電圧を使うと、オーバークロック動作の助けになるかもしれませんが、コンピューター部品の寿命を縮めることになります。初期設定値で使用することを強く推奨します。

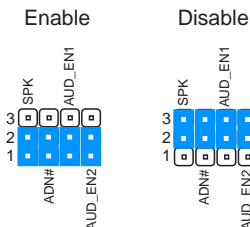
3) オンボードオーディオ設定 (オーディオモデルのみ)

PCIやISAサウンドカードやプライマリAMRサウンドカードを使用する際に、ボード上のオーディオコーデックを無効 (Disable) にしてください (AMRスロットの箇所も参照してください)。ISA・PCIオーディオカードを使用するなら、**4.2 I/O Device ConfigurationのOnboard AC97 Audio Controller**を無効 (disabled) にしてください。

設定	AUDIO CODEC
Enable	[1-2] [1-2] [1-2] [1-2]
Disable	[2-3] [2-3] [2-3] [2-3]



MEW Audio Codec Setting

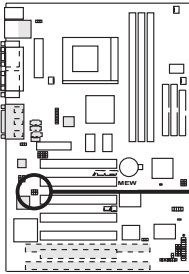


3. ハードウェアセットアップ

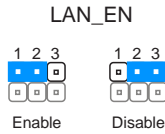
4) オンボードLAN設定 (LAN_EN) LANモデルのみ有効

ボード上のLANは、このジャンパーで有効/無効を設定します。

設定	LAN_EN
Enable	[1-2] (default)
Disable	[2-3]



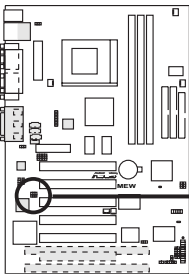
MEW LAN Setting



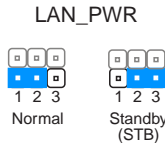
5) オンボードLAN電源設定 (LAN_PWR) LANモデルのみ有効

ボード上のLAN電源は、通常/スタンバイ設定が可能です。電源装置が720 mAのスタンバイ電源を実現しないなら「Normal」を選択してください。「Standby」を選択すると、Wake-On-LANは使用できませんが、電源が不十分だとシステム起動はできません。

設定	LAN_PWR
Normal	[1-2] (default)
Standby	[2-3]



MEW LAN Power Setting

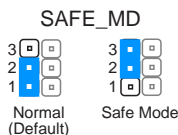
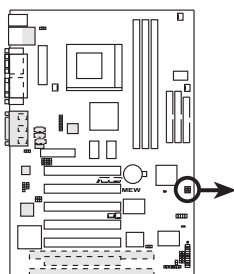


3. ハードウェアセットアップ

6) セーフモード (SAFE_MD)

通常、ソケット370プロセッサは、周波数倍数がロックされています。この場合、マザーボード設定やBIOSセットアップにより、初期設定倍数を変更することはできません。ソケット370のプロセッサのこのロックを解除すると、BIOSセットアップにより設定を変更することができます。指定倍数を越えた設定でシステムを起動しようとする、起動時にハングアップする可能性があります。もし、ハングアップしたら、セーフモードを有効(Enable)にし、BIOSセットアップで設定を変更してください。

設定	SAFE_MD
Disable	[1-2] (default)
Enable	[2-3]

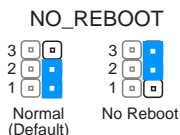
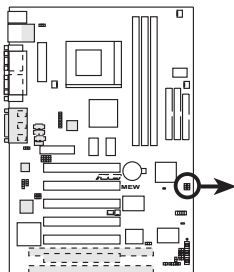


MEW Safe Mode Setting

7) 自動タイムアウト再起動設定 (NO_REBOOT)

マザーボードは、システム起動時にBIOSがハング(タイムアウト)を検出すると、自動的に再起動するように設定されています。この再起動が効果なく行われる場合は、このジャンパーを「No Reboot(再起動なし)」に設定してください。

設定	NO_REBOOT
Normal	[1-2] (default)
No Reboot	[2-3]



MEW Reboot Setting

3. ハードウェアセットアップ

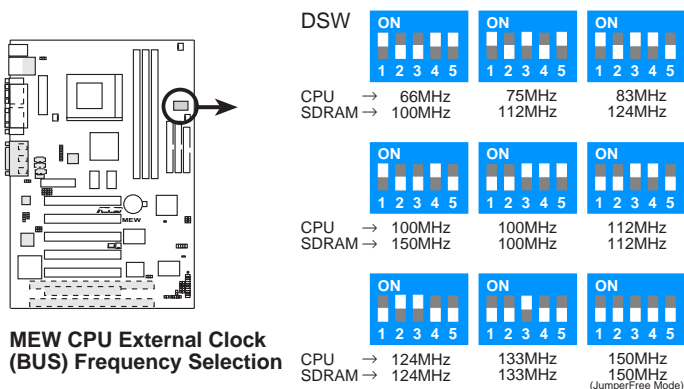
8) CPU外部周波数設定 (DSW)

クロックジェネレーターが、CPU、DRAM、PCIに送り出す周波数を指定します。これは、CPU外部周波数の選択です。この外部周波数に周波数倍数を掛けた値が、CPUの内部周波数(CPUの公称スピード)になります。注：CPU外部周波数とは独立してメモリスピードを設定できます。使用するメモリータイプPC66(66 MHz)かPC100(100 MHz)に基づいて、該当するCPUスピードと該当するSDRAMスピードを選択してください。

重要：現在のソケット370CPUでは、66MHzCPUと100MHzSDRAMだけが使用できます。他の設定は、熟練したユーザー用です。JumperFreeモードが有効のとき、ディップスイッチではなくBIOSセットアップで設定してください(4.4 Advanced MenuのCPU Speed参照)。選択されたスイッチだけを图示します。詳細は、次ページのリストを参照してください。

注：ジャンパーフリーモードでは、ディップスイッチ(DSW)はすべてオフに設定しなくてはなりません。

3. H/Wセットアップ
ジャンパーボード設定



注：ソケット370プロセッサの周波数倍率はロックされているので、周波数倍率設定はできません。使用するソケット370プロセッサの周波数倍率がロックされていないなら、BIOSセットアップにある4.4 Advanced MenuのCPU Core:Bus Freq.Multipleで周波数倍率をセットすることができます。周波数倍率がロックされている場合には、BIOSセットアップで周波数倍率を設定しても無効です。

警告! 66 MHzを超えるCPU周波数は、現在のCeleronプロセッサの仕様外であるため、動作が不安定になる可能性があります。オーバークロックはCPUの寿命を短くします。使用するDIMMに応じた設定でないと、システム起動できない場合があります。

3. ハードウェアセットアップ

Intel Celeron (PPGA) プロセッサ - 外部周波数表

以下の表は熟練したマザーボードインストール担当者の参照用です。オーバークロック動作では、システムが不安定になるだけではなく、プロセッサの寿命を短くすることになります。また、太字設定は前ページで示したものです。

CPU (MHz)	SDRAM (MHz)	PCI (MHz)	周波数選択スイッチ				
			1	2	3	4	5
67.81	101.71	33.90	[ON]	[ON]	[ON]	[ON]	[ON]
70.00	105.00	35.00	[ON]	[OFF]	[ON]	[ON]	[ON]
72.01	108.01	36.00	[ON]	[ON]	[OFF]	[ON]	[ON]
66.67	100.00	33.33	[ON]	[OFF]	[OFF]	[ON]	[ON]
73.01	109.51	36.50	[ON]	[ON]	[ON]	[OFF]	[ON]
75.00	112.50	37.50	[ON]	[OFF]	[ON]	[OFF]	[ON]
77.00	115.50	38.50	[ON]	[ON]	[OFF]	[OFF]	[ON]
78.01	117.01	39.00	[ON]	[OFF]	[OFF]	[OFF]	[ON]
80.00	120.00	40.00	[ON]	[ON]	[ON]	[ON]	[OFF]
83.00	124.51	41.50	[ON]	[OFF]	[ON]	[ON]	[OFF]
84.49	126.74	42.25	[ON]	[ON]	[OFF]	[ON]	[OFF]
100.00	150.00	50.00	[ON]	[OFF]	[OFF]	[ON]	[OFF]
86.08	129.12	43.04	[ON]	[ON]	[ON]	[OFF]	[OFF]
88.00	132.00	44.00	[ON]	[OFF]	[ON]	[OFF]	[OFF]
90.00	135.00	45.00	[ON]	[ON]	[OFF]	[OFF]	[OFF]
95.00	142.50	47.50	[ON]	[OFF]	[OFF]	[OFF]	[OFF]
49.90	49.90	16.63	[OFF]	[ON]	[ON]	[ON]	[ON]
100.00	100.00	33.33	[OFF]	[OFF]	[ON]	[ON]	[ON]
74.85	74.85	24.95	[OFF]	[ON]	[OFF]	[ON]	[ON]
66.58	66.58	22.19	[OFF]	[OFF]	[OFF]	[ON]	[ON]
82.84	82.84	27.61	[OFF]	[ON]	[ON]	[OFF]	[ON]
89.81	89.81	29.93	[OFF]	[OFF]	[ON]	[OFF]	[ON]
94.80	94.80	31.60	[OFF]	[ON]	[OFF]	[OFF]	[ON]
100.50	100.50	33.50	[OFF]	[OFF]	[OFF]	[OFF]	[ON]
104.78	104.78	34.93	[OFF]	[ON]	[ON]	[ON]	[OFF]
111.77	111.77	37.26	[OFF]	[OFF]	[ON]	[ON]	[OFF]
114.77	114.77	38.26	[OFF]	[ON]	[OFF]	[ON]	[OFF]
100.00	100.00	33.33	[OFF]	[OFF]	[OFF]	[ON]	[OFF]
123.75	123.75	41.25	[OFF]	[ON]	[ON]	[OFF]	[OFF]
132.74	132.74	44.25	[OFF]	[OFF]	[ON]	[OFF]	[OFF]
139.75	139.75	46.58	[OFF]	[ON]	[OFF]	[OFF]	[OFF]
149.69	149.69	49.90	[OFF]	[OFF]	[OFF]	[OFF]	[OFF]

注：PCIクロックは、SDRAMの1/3に等しくなります。PCIの仕様では最高33MHzまで認められるので、PC100準拠DIMMとSDRAM100MHz設定での使用を推奨します。最新プロセッサ設定については、ASUS Webサイトから情報を入力できます(ASUSへの連絡を参照)。

3. ハードウェアセットアップ

3.5 システムメモリー(DIMM)

注:メモリーを取り付けたり外したりしても、ハードウェアやBIOSの設定は不要です。

本マザーボードで使用できるのは、Dual Inline Memory Modules (DIMM)だけです。ソケットには、**3.3ボルト**(電力レベル)のバッファなしタイプSDRAM(16/32/64/128/256MB)を取り付けます。

このチップセットは、ECCをサポートしません。ECCメモリーモジュール使用することができますが、ECC機能は無効です。

メモリスピード設定は、**4.4.1 Chip Configuration**の**SDRAM Configuration**で行います。

次の組み合わせで、メモリーをインストールします：

DIMMの位置	168ピン DIMMの容量		トータルメモリー
DIMM1 (列 0&1)	シングル-サイド ダブル-サイド	x1	
DIMM2 (列 2&3)	シングル-サイド(DIMM3より前のソケットにDIMMがある場合のみ) ダブル-サイド(DIMM3は空でなくてはなりません)	x1	
DIMM3 (列 3&2)	シングル-サイド(DIMM2はシングル-サイドでなくてはなりません) (ダブル-サイドDIMMはここに使いません!) (DIMM2メモリーと同じか1/2サイズのもののみ)	x1	
トータルシステムメモリー (最高 512MB)			=

注：本マニュアル作成時では、256MBDIMMは両面レジスターメモリー(128Mbitセル)のみ使用確認しました。2x2x2 SDRAMを使うと、ボード上のグラフィックス性能を大きく改善します。

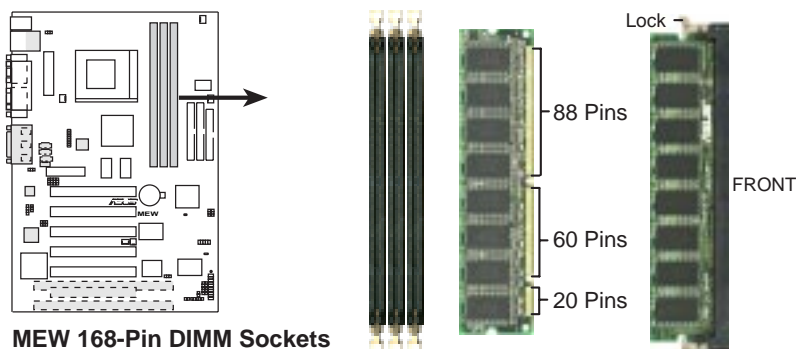
3.5.1 DIMMについて

- 本マザーボードを100 MHz稼働する際、タイミングが厳しいため、PC100準拠モジュールを使用してください。使用するDIMMがPC100準拠でない場合には、SDRAMバス周波数を66 MHzRAMに設定してください。ただし、ボード上のグラフィックスやPCI拡張カードにとっては負担となります。
- ASUSマザーボードは、SPD (Serial Presence Detect) DIMMをサポートします。最高性能を発揮することができるメモリーの選択です。
- SDRAMチップは、一般にEDO (Extended Data Output) チップより高いピン密度でより薄いです。
- BIOSは、起動画面にSDRAMメモリーを表示します。
- 片面DIMMの場合・・・16、32、64、128MB。両面DIMMの場合・・・32、64、128、256MB。

3. ハードウェアセットアップ

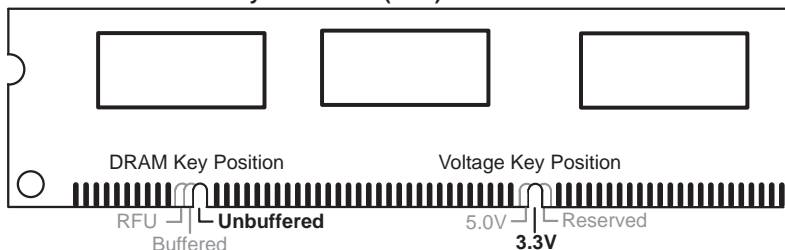
3.5.2 DIMMメモリーのインストール

メモリーモジュールをソケットに挿入してください。コネクタ部分は分割されていて、部分ごとのピン数が異なるため、反対方向に差し込むことはできません。図を参照してください。DIMMモジュールはより長く、ピン接点は両側に異なります。したがって、ピン密度も高いです。SMMモジュールは、両面で同じピン接点です。



本製品では、**3.3 Vバッファなしタイプ**のDIMMを使用しなければなりません。DIMMの種類は、DIMMの切れ込みで判別できます(下図参照)。

168-Pin DIMM Notch Key Definitions (3.3V)



DIMMのタイプを確認できるように、刻み目が左、中央、右にシフトしています。このことで、間違ったタイプのDIMMを取り付けることができないようになっています。DIMM購入前に、本製品で使用できるものであるかどうかを販売店で確認してください。本製品は、4クロック信号タイプをサポートしています。

3. ハードウェアセットアップ

3.6 中央処理装置 (CPU)

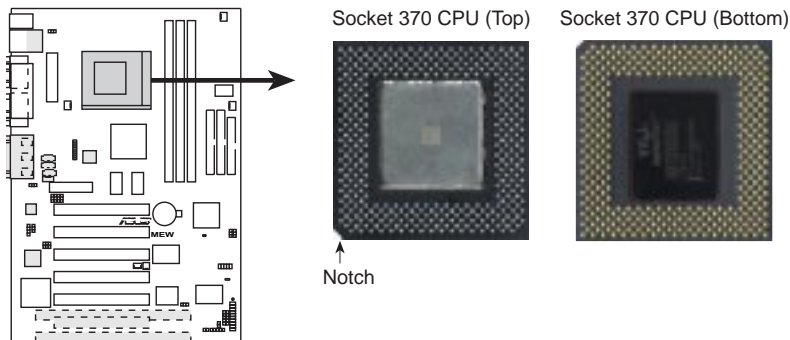
本製品は、ZIFソケット370を搭載しています。本マザーボードに取り付けるCPUには、過熱を防ぐためにファンを取り付けなくてはなりません。ファンを付けない状態でシステムの電源を投入しないでください。

警告! プロセッサのヒートシンクを横切って十分な空気が流れるよう、ファンの動作を定期的にチェックしてください。十分な空気循環がないと、プロセッサは過熱し、プロセッサやマザーボードが損傷します。必要に応じ、別のファンもインストールしてください。

CPUをインストールするため、まずシステムをオフにし、カバーを取り外してください。ZIFソケットの位置を確認し、ソケット側面にあるレバーを横に引っぱり、上に90度起こします。示すように正しい方向にCPUを挿入してください。面取りされた角がレバーの端の方になりますようにします。CPUの4角の内、2つにはコーナピンがあるので、CPUは一方方向のみに取り付けることができます。図を参考として掲載します。; CPUファンは、CPUを覆うタイプのものでご使用ください。CPUにファンを取り付けた場合には、ファンの重さが加わるのでCPUの挿入は簡単です。CPUを完全に挿入したら、ソケットのレバーを戻して、CPUを固定してください。

注: 正しいバス周波数と倍数(周波数倍数はロックの解除されているプロセッサに対してのみ有効)を使用するソケット370プロセッサに設定してください。そうしないとシステム起動できなくなります。ソケット370プロセッサは、内部温度検出機能を持っているので、別途温度センサーをソケットに搭載する必要はありません。

注意! プロセッサファンを取り付ける際に、マザーボードをひっかいたりしないようにしてください。マザーボードが損傷することになります。



MEW Socket 370

3. ハードウェアセットアップ

3.7 拡張カード

警告! 拡張カードやその他の部品を取り付けたり取り外したりする際には、事前に電源プラグを抜いてください。そうしないと、マザーボードや拡張カードに損傷を与える場合があります。

3.7.1 拡張カードインストール手順

1. 取り付ける拡張カードの付属文書を読み、必要に応じてジャンパー設定などを行ってください。
2. 筐体のカバーを外し、カードを取り付けるスロットに対応したバックパネルの金具を取り外してください。取り外した金具は、将来使うことがあるので保存してください。
3. カードコネクタに合わせて慎重にしっかりと押し込みます。
4. カードの取り付けを確認したら、先に金具を止めていたネジでカードを取り付けてください。
5. 筐体のカバーをもと通りに取りつけます。
6. 必要に応じBIOSを設定してください。
(例：PNP AND PCI SETUP で IRQ xx Used By ISA を Yesにする)
7. カードの使用に必要なソフトウェアドライバーをインストールしてください。

3.7.2 拡張カードへのIRQ割り当て

拡張カードは、使用するためにIRQを割り当てる必要があります。一般に、IRQは使用する機器について個別に割り当てる必要があります。標準的な設計では、16個のIRQがあります。しかし、システムが利用しているものがあるため、拡張カードのためには6個のIRQのみが残されています。マザーボードにPCIオーディオが搭載されている場合には、PCIオーディオがIRQを使用します。MIDIが有効の場合、ひとつのIRQが使われ、4つのIRQが空いています。

通常、ISAカードもPCIカードもIRQを使用します。システムIRQは最初にISA拡張バスに取り付けられたカードに利用されます。そして、次にPCIカードに利用されません。現在、2種類のISAカードがあります。

オリジナルのISA拡張カード、現在レガシーISAカードと呼ばれるものは、手でカードジャンパーを設定して、それから利用できるISAバススロットに取り付けます。使用しているIRQや空いているIRQのマップをWindows 98で参照するには、「マイコンピュータ」-「コントロールパネル」-「システム」-「デバイスマネージャ」タブを順次選択します。特定のハードウェアデバイス上でダブルクリックすると、割り込みナンバーとアドレスを示すリソースタブが表示されます。複数の機器が同じIRQを使用すると、その機器を使用する際に、使用できないなどの問題が発生します。

この割り当て手順を単純化するためには、自動的にIRQなどを割り当てる機能を搭載したプラグアンドプレイ(PNP)仕様を満たすカードを使用してください。本マザーボードはPNP対応です。

3. ハードウェアセットアップ

PNP ISAカードとLegacy ISAカードが取り付けられている場合には、Legacy ISAカードで使用されていないIRQをPNP ISAカードに割り当てます。BIOSセットアップユーティリティのPCI and PNP configurationで、どのIRQが使用されているかどうかを知ることができます。かなり古いISAカードでBIOSを使用しないものを使いたい場合には、販売店、メーカーに相談してIRQを割り当ててください。

Legacy ISAカードとPNP ISAカードにIRQを割り当てた後、PCIカードに自動的にIRQが割り当てられます。PCIバスの設計では、PCIスロットに取り付けられたIRQを要求するカードにBIOSが自動的にIRQを割り当てます。PCIカードを使用するには、INT割り当てが必要です。本製品のPCIスロットはINTA #を使うので、取り付けのPCIカードはINT Aに設定してください。

3.7.3 ISAカードへのDMAチャンネル割り当て

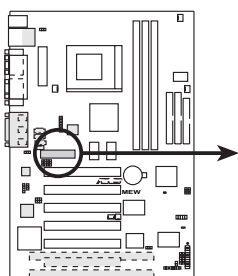
ISAカードの中には、Legacyタイプ・PNPタイプを問わず、DMA (Direct Memory Access) チャンネルを使うものがあります。本マザーボードでのDMA割当ては、先のIRQ割当て手順と同じです。DMAチャンネルを選択するため、4.4.3 PCI ConfigurationのPCI/PNP ISA DMA Resource Exclusionを参照してください。注：ボード上のオーディオは初期設定でDMA1を使います。

重要：コンフリクトを避けるため、必要なIRQとDMAをLegacy ISAカードに設定してください(4.4.3 PCI ConfigurationのPCI/PNP USA IRQ Resource Exclusionを参照)。IRQ xx Used By ISA・DMA x Used By ISAなどを必要に応じYesに設定します。

3.7.4 オーディオモデムライザー (AMR) スロット

このコネクタは、AMRと呼ばれる特別に設計されたオーディオ/モデムカードをサポートします。主要な処理は、ソフトウェアより行われ、マザーボードのインテルコントローラーハブ (ICH) により制御されます。非常に低いコストでアップグレードできるオーディオ/モデムソリューションを提供します。2種のAMR、プライマリとセカンダリがあります。本マザーボードは、プライマリチャンネルを使用し、ボード上のコーデックを使用禁止にする必要なくセカンダリAMRと共存することができます。プライマリAMR使用時には、マザーボードボード上のコーデックを無効 (Disabled) に設定してください。

注：本マザーボードにAMRは付属していません。



MEW Audio Modem Riser (AMR) Connector

3. ハードウェアセットアップ

3.8 外部コネクタ

警告! ピンの中にはコネクタや電源に使用されるものがあります。これらは、マザーボード上の部品配置図に示されています。これらのピンにジャンパーキャップをかぶせるとマザーボードを壊します。

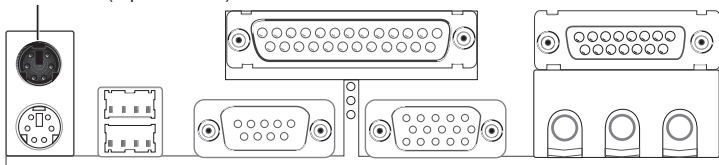
重要: リボンケーブルは、赤いストライプのある側をコネクタのピン1に接続しなくてはなりません。ピン1は、通常、ハードディスクやCD-ROMドライブの電源コネクタに最も近い側にあります。フロッピーディスクドライブの中には反対側にあるものもあります。例外もあるので、取り付け前にコネクタをチェックしてください。IDEリボンケーブルは、46センチ(18インチ)未満の長さものを使用してください。2つのコネクタは15センチ(6インチ)以内でなくてはなりません。

注: ボード上のファストイーサネットは、購入時オプションです。次に示すのは、ファストイーサネット非搭載タイプのイラストです。

1) PS/2マウスコネクタ(緑色 6ピン PS2KBMS)

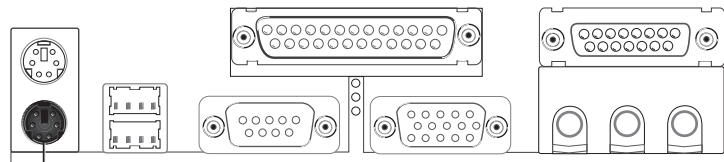
システムは、PS/2マウスにIRQ12を自動的に割り当てます。もしPS/2マウスが検出されない場合には、拡張カードがIRQ12を使うことができます。4.4 Advanced Menu のPS/2 Mouse Function Controlを参照してください。

PS/2 Mouse (6-pin Female)



2) PS/2キーボードコネクタ(紫色 6ピン PS2KBMS)

標準のPS/2キーボードコネクタ(mini DIN)を取り付けるコネクタです。サイズの大きい標準ATキーボードを取り付けることはできません。ATキーボードコネクタを取り付ける場合にはアダプターを使って下さい。

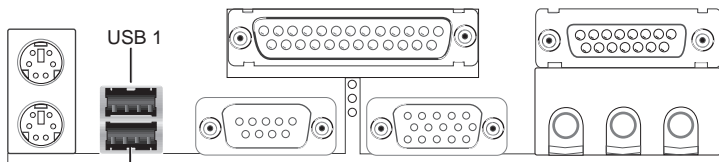


PS/2 Keyboard (6-pin Female)

3. ハードウェアセットアップ

3) Universal Serial BUS ポート 1 & 2 (黒色 4ピン USB x2)

USB機器を接続するために使用します。

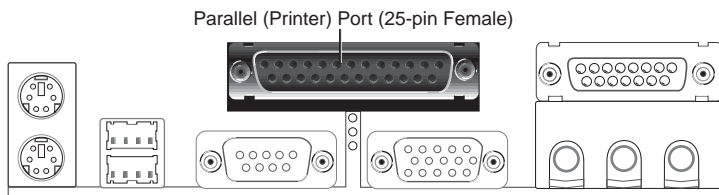


Universal Serial Bus (USB) 2

4) パラレルポートコネクタ (パーガンディ色 25ピン PRINTER)

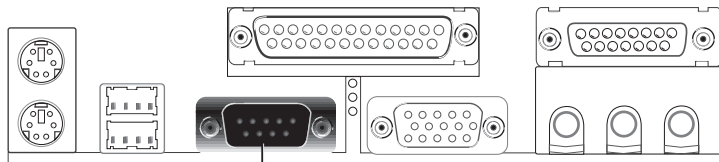
パラレルポートの有効/無効、IRQ選択をすることができます (4.4.2 I/O Device Configuration の Onboard Parallel Port を参照してください)。

注：シリアルプリンターは、シリアルポートに接続してください。



5) シリアルポートCOM1コネクタ (ティールトルコ石色 9ピン COM1)

このシリアルポートは、マウスなどのシリアル機器を接続します。第2シリアルポートは、シリアルポート金具を接続し、拡張スロット用開口部に取り付けて使用します。設定について、4.2.2 I/O Device Configuration の Onboard Serial Port 1 を参照してください。

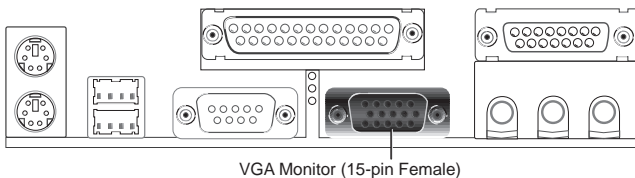


Serial Port (9-pin Male) COM 1

3. ハードウェアセットアップ

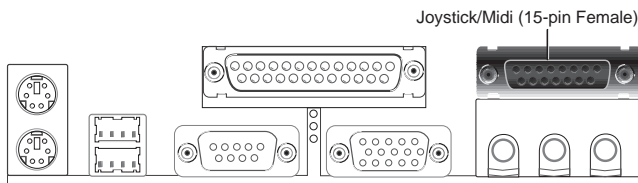
6) モニター出力コネクタ (青色 15ピン VGA)

このコネクタにはVGA互換機器を接続します。



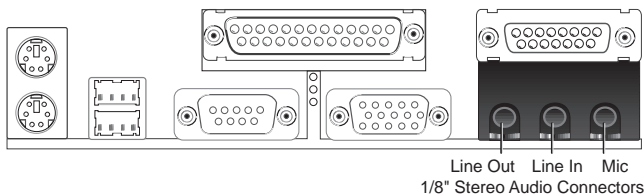
7) Joystick/MIDI コネクタ (金色 15ピン GAME_AUDIO)(オプション)

ゲームをするために、ゲームジョイスティックやゲームパッドをコネクタに接続することができます。高性能オーディオを再生・編集するMIDI機器を接続してください。



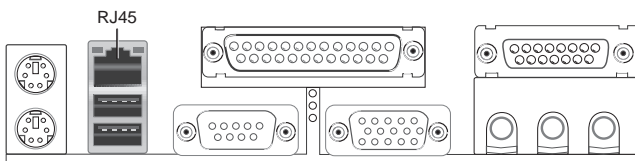
8) オーディオポートコネクタ (1/8" GAME_AUDIO x3)(オプション)

Line Out (ライム色)には、ヘッドフォンやアンプ付きスピーカーを接続します。**Line In** (ライトブルー色)には、テーププレーヤーなどのオーディオ機器を接続します。コンピューターで録音したり、Line Outに接続した機器でサウンドを使用することができます。**Mic** (ピンク色)には、マイクを接続します。



9) ファスターサネットポートコネクタ (RJ45)(オプション)

RJ45コネクタは購入時オプションで、USBコネクタの上にあります。このコネクタは、ネットワークハブを通じ、LANに接続する際に使用します。



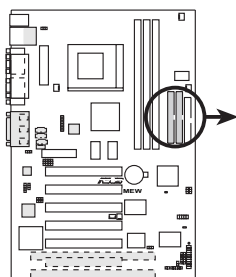
3. ハードウェアセットアップ

10) プライマリ/セカンダリIDEコネクタ(40-1ピン IDE x2)

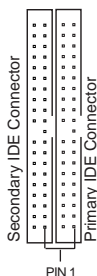
IDEハードディスクリボンケーブルをサポートします。一方の端をマザーボードに取り付け、他の2つのコネクタをハードディスクドライブに取り付けます。2台のハードディスクドライブを取り付ける場合には、2台目をスレーブモードになるようにドライブのジャンパーなどを設定して下さい。ジャンパーなどの設定については、ハードディスクドライブに付属の文書を参照して下さい。BIOSは様々な機器からの起動に対応しています(4.6 Boot MenuのBoot Sequence参照)。(間違った方向に取り付けることを避けるため、ピン20が埋められたリボンケーブルを使用できるようにピン20は取り除かれています)

TIP: 2本のリボンケーブルを使用し、2台のハードディスクをどちらもマスターとして構成することができます。IDEドライブとSCSIドライブの双方にOSをインストールし、4.6 Boot MenuのBoot Sequence設定で、起動ドライブを切り替えることができます。

重要: UltraDMA/66IDE機器には、80ピンIDEケーブルを使用してください。



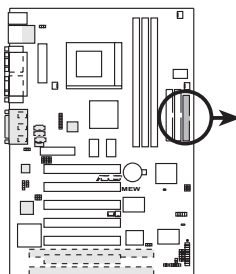
MEW IDE Connectors



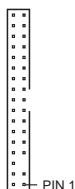
NOTE: Orient the red markings (usually zigzag) on the IDE ribbon cable to PIN 1

11) フロッピーディスクドライブコネクタ(34-1ピン FLOPPY)

このコネクタには、付属のフロッピードライブリボンケーブルを取り付けます。ひとつのプラグをボードに取り付け、他方の2プラグをドライブに取り付けます。(間違った方向に取り付けることのないように、ピン5は取り除かれています。ピン5に穴の空いていないプラグを使ったケーブルの場合に有効です)



MEW Floppy Disk Drive Connector



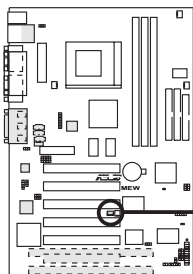
NOTE: Orient the red markings on the floppy ribbon cable to PIN 1

3. ハードウェアセットアップ

12) Wake-On-LANコネクター (3ピン WOL_CON)

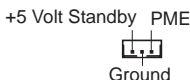
ASUS PCI-L101イーサネットカードなど、Wake-On-LAN出力を搭載したLANカードを接続します(LAN機能搭載モデルは除く)。ウェイクアップパケットや信号を受信したら、システムの電源が入ります。

重要：この機能は、WAKE On LANがEnabled(有効)に設定されていなければ利用できません(4.5.1 Power Up Controlを参照)。また、システムのATX電源装置が、少なくとも720mA +5Vスタンバイ電源をサポートしていなくてはなりません。



MEW Wake-On-LAN Connector

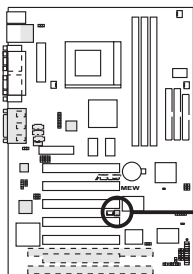
IMPORTANT: Requires an ATX power supply with at least 720mA +5 volt standby power



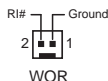
13) Wake-On-Ringコネクター (2ピン WOR)

このコネクターには、Wake-On-Ring出力を搭載した内部モデムカードを接続します。リングアップパケットや信号を受信したら、システムの電源が入ります。注：外部モデムでは、Wake-On-RingはCOMポートを通して利用できます。

重要：この機能を利用するには、4.5.1 Power Up ControlのPWR UP On Modem ActをEnabled(有効)に設定し、少なくとも720mA +5Vスタンバイ電源を利用できるATX電源装置が必要です。



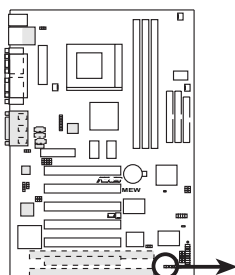
MEW Wake-On-Ring Connector



3. ハードウェアセットアップ

14) IDEアクセスLED (2ピン IDE)

筐体のIDEアクセスLEDを接続します。プライマリもしくはセカンダリIDEコネクタに接続した装置にアクセスが行われると、LEDが点灯します。



MEW IDE Activity LED

TIP: If the case-mounted LED does not light, try reversing the 2-pin plug.

IDELED

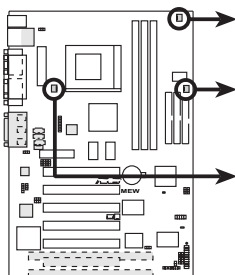


15) 筐体、CPU、電源ファンコネクタ (3ピン CHA_, CPU_, PWR_FAN)

これらのコネクタは350mA (4.2ワット)以下のクーラーファンに電源を供給します。ヒートシンクのフィンを、拡張スロットの方ではなくボード上のヒートシンクに風を送るような向きで取り付けして下さい。ファン製造業者によって、配線とプラグの形状は異なるかもしれませんが、通常、赤がプラスで黒がグラウンドです。プラスやグラウンドが正しくなるようにプラグを取り付けて下さい。

注：Rotation信号は、Rotation信号を使うことができるファンでのみ使用します。回転数 (RPM：回転/分)を、ASUS PC Probe UtilityやIntel LDCM Utilityで監視することができます(6.ソフトウェアリファレンス参照)。

警告! 気流がCPUと搭載されたヒートシンクを横切っていないと、CPUやマザーボードは過熱します。これらのピンを間違えて使うと、マザーボードやCPUファンに損傷を与えます。これらはジャンパーではないので、決してジャンパーキャップを取り付けしないで下さい。



MEW 12-Volt Cooling Fan Power

CPU Fan Power



Chassis Fan Power



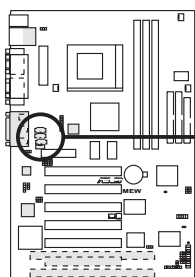
Power Supply Fan



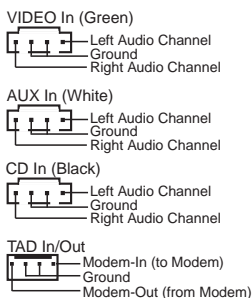
3. ハードウェアセットアップ

16) 内部オーディオコネクタ (4ピン VIDEO、AUX、CD、TAD)

これらのコネクタは、CD-ROM、テレビチューナー、MPEGカードなどからステレオオーディオ入力に使用します。TADコネクタで、ボード上のオーディオを、対応コネクタを搭載したボイスモデムカードと接続することができます。ボード上のオーディオと音声モデムカードで、モノラル入力(例: 電話)・モノラル出力(例: スピーカー)を共有することができます。

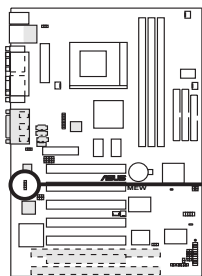


MEW Internal Audio Connectors

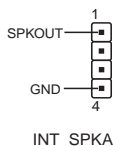


17) 内部スピーカーコネクタ (INT_SPKA)

このコネクタで、内部筐体スピーカーをボード上のオーディオ出力に接続することができます。本来なら別途スピーカーを購入しなければならないサウンドを、筐体の内蔵スピーカーで聞くことができます。グラウンド(GND)線は、通常黒い電線で、スピーカー出力(SPKOUT)は、通常赤い電線です。また、システムビープ音や警告音は、INT_SPKAを使用するので、2つのスピーカーは不要です。



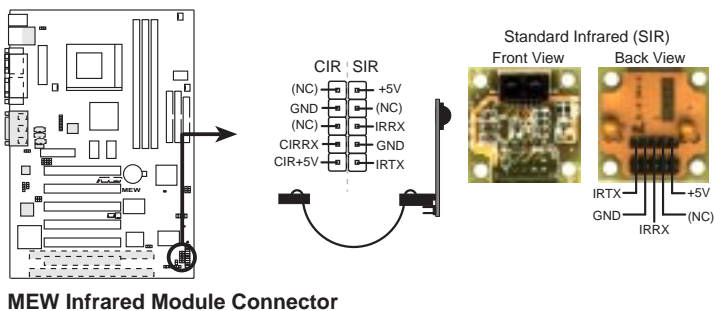
MEW Internal Speaker Connector



3. ハードウェアセットアップ

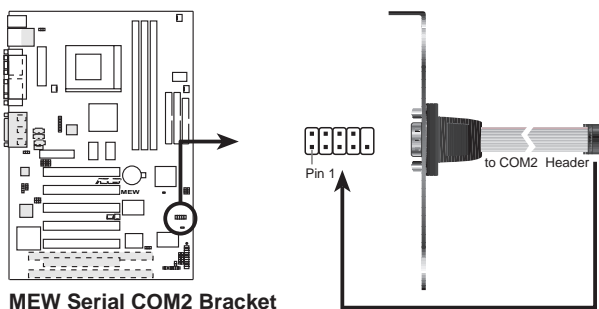
18) 標準IR (SIR)(5-1 pin)・コンシューマーIR (CIR)(5-pin)コネクタ

このコネクタには、オプションのワイヤレス通信赤外線のマジュールを接続します。本機能をサポートする筐体にこのマジュールを取り付けます。また、UART2のCOM2/IrDAでの使用について、**UART2 Use Infrared**で設定してください(4.4.2 I/O Device Configuration参照)。背面図にある5つのピンとリボンケーブルで、マジュールとマザーボードのSIRコネクタを定義に従い接続してください。オプションのコンシューマー赤外線 (CIR) セットは、一つの外部赤外線マジュールで、無線通信と遠隔制御を行えるよう、CIRコネクタとSIRコネクタに接続してください。コンシューマー赤外線 (CIR) パワーアップを使うには、4.5.1 Power Up ControlのWake On PS2 KB/Mouse設定を有効(Enabled)に指定してください。



19) シリアルポートCOM2端子 (10-1ピン COM2)

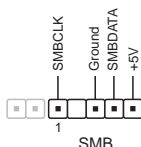
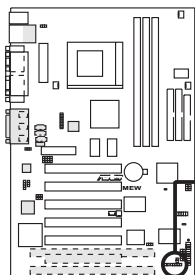
オプションのシリアルポート金具を使い、COM2を使用できるようにします。ここで示す金具は、非LCDモデル用のものです。



3. ハードウェアセットアップ

20) SMBusコネクタ (5-1ピン SMB)

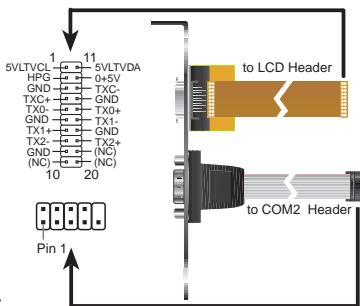
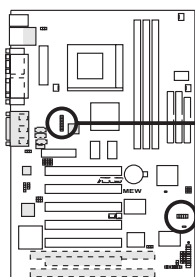
このコネクタでSMBus(System Management Bus)機器を使うことができます。SMBus機器はSMBusを使って相互に通信します。SMBusは、I²Cバス (multi-device busです)仕様を満たします。複数のチップが同一のバス上で動作することができるのです。



MEW SMBus Connector

21) デジタルLCD端子 (20-pin LCDHD)

この端子にはデジタルLCDケーブルコネクタを取り付けます。LCDモデルでは、シリアルポート金具ではなく、LCD・シリアルポート金具が付属します (図参照)。デジタルLCDケーブルをLCD端子に、シリアルケーブルをCOM2端子に接続し、筐体の空いた拡張スロットの箇所に金具を取り付けてください。
注: CRTとデジタルLCDを接続した場合、CRTが優先します。このコネクタは、デジタルLCDパネル用です。15ピンVGAケーブルコネクタを搭載したアナログLCDパネルは、モニターコネクタに接続してください。ここで示す金具・コネクタは、LCDモデルに付属しているものです。

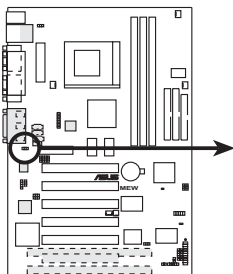


MEW LCD and COM2 Bracket

3. ハードウェアセットアップ

22) 内部マイクコネクタ(3ピン INT MIC)

このコネクタを使用すると、ATXコネクタを使用せず、筐体に取り付けられたマイクを接続することができます。

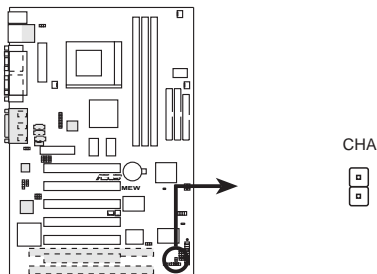


MEW Internal Microphone Connector

3. ハードウェアセットアップ

23. 筐体開放検出端子 (2ピン CHA)

この端子は、筐体開放検出に対応した筐体で使用します。また、追って発売されるトグルスイッチを筐体のパネルや取り外し可能部品に取り付けて使用することもできます。2つの電線で筐体・端子間を接続します。筐体の部品が取り外されると、接点が開き、マザーボードは筐体開放イベントを記録します。そのイベントは、LDCMのようなソフトウェアで処理されます。筐体開放検出端子を使用しない場合には、不要な電力消費を避けるため、ジャンパーキャップを端子に取り付けてください。

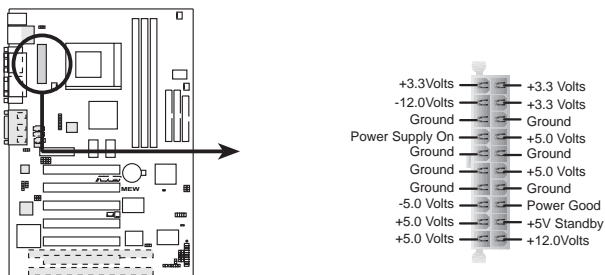


MEW Chassis Open Alarm Lead

24) ATX電源コネクター (20ピン ブロック ATXPWR)

このコネクターにはATX電源を接続します。ATX電源コネクターは、穴の大きさにより一方にしか取り付けることができないようになっています。正しい方向に差し込み、確実にしっかりと取り付けてください。

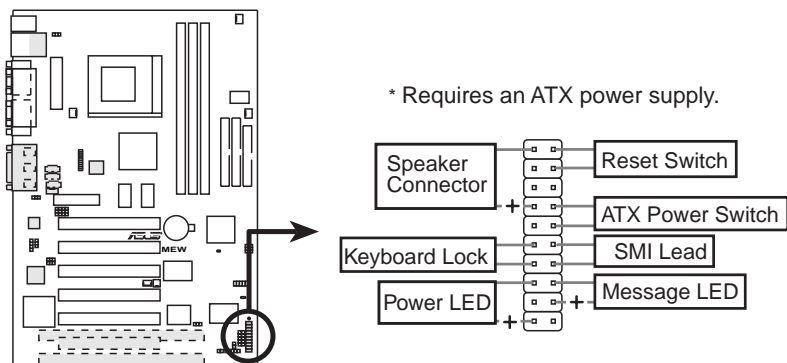
重要：使用するATX電源が、+5Vスタンバイ端子(+5VSB)に少なくとも10mAを供給することができることを確認してください。この仕様を満たさない筐体を使った場合には、電源のオン/オフについて正常に動作しないかもしれません。Wake-on-LANを利用するためには、ATX電源が少なくとも720mA+5VSBを供給できなくてはなりません。



MEW ATX Power Connector

3. ハードウェアセットアップ

次のパネルイラストは項目25-31用です。



MEW System Panel Connectors

3. ハードウェアセットアップ

25) システム警告スピーカーコネクタ (4ピン SPEAKER)

この4ピンのコネクタに、筐体に取り付けられたスピーカーを接続します。筐体のスピーカーをINT_SPKAに接続する場合には、ここは接続しなくてもよいです。LINE_OUT、INT_SPKA、SPEAKERの3つはすべて、ピープ音や警告をサポートします。統合化オーディオ機能が正しく初期化される前には、LINE_OUTのみでシステムピープ音を聞くことができます。

26) キーボードロックスイッチ端子 (2ピン KEYLOCK)

この2ピンのコネクタに、キーボードロック用の筐体に取り付けられたスイッチを接続します。

27) システムパワーLED端子 (3-1ピン PLED)

この3-1ピンのコネクタに、システムパワーLEDを接続します。このLEDはシステムオンのときは点灯し、スリープモードやソフトオフモードでは点滅します。

28) リセットスイッチ端子 (2ピン RESET)

この2ピンのコネクタに、パワースイッチをオフにすることなくコンピューターをリブートできるよう筐体に取り付けられたリセットスイッチを接続します。このリセットスイッチを使うと、システムの電源スイッチの寿命を縮めることなくリセットすることができます。

29) ATX電源スイッチ端子 (2ピン PWRSW)

システムの電源は、この端子に接続されたスイッチにより制御されます。このボタンを押すと、オンとソフトオフを相互に切り換えます。オンモードのときに、このスイッチを4秒以上押し続けるとシステムの電源が切れます。システムパワーLEDは、システムパワーの状態を示します。

30) System Management Interrupt 端子 (2ピン SMI)

この端子を使ってサスペンドモード、すなわちグリーンモードにシステムを移行させることができます。このモードではシステムはお休み状態で節電ができ、機器の寿命をのばすことができます。この2ピンのコネクタには、筐体に取り付けられているサスペンドスイッチを取り付けます。サスペンドスイッチがない場合には、ターボスイッチを使用することもできます。SMIはショートからオープンになったときに機能します。それゆえ、ショートしておいても全く問題はありません。スイッチの状態によっては1回か2回押す必要があります。このウェイクアップの制御はBIOSで設定しますが、キーボード操作をすると常に目覚めます (SMI端子はシステムをウェイクアップさせることはできません)。

31) メッセージLED端子 (2ピン LED)

ファックス/モデムからメッセージが受信されたかどうかを示します。LEDは信号を送受信していないときは点灯し、データ送受信中や待機中は点滅します。本機能を使用するには、ACPI OSとドライバーのサポートが必要です。

3. ハードウェアセットアップ

(このページは空白ページです)

3. H/MEWセットアップ
コネクタ

3. ハードウェアセットアップ

3.9 電源投入手順

1. 接続が終わったら、筐体のカバーを閉じます。
 2. 全てのスイッチをオフにします(筐体によっては白丸印があります)。
 3. 筐体にACケーブルを接続します。
 4. ACプラグをACコンセントに接続します。
 5. 次の順序で機器の電源を入れます：
 - a. モニター
 - b. 外部SCSI機器(ディジーチェーンの最後の機器から電源を入れて下さい)
 - c. システムの電源。ATX電源の場合は、筐体のフロントパネルに取り付けられたATX電源スイッチを押す前に、電源装置のスイッチをオンしておかなければなりません。
 6. 筐体前面のパワーLEDが点灯します。ATX電源の場合には、ATX電源スイッチを押すとシステムLEDは点灯します。モニター上のLEDが点灯しているか、グリーン機能準拠のシステムが電源スタンバイ機能を搭載したシステムの場合には、オレンジとグリーンに交互に点滅します。システムはパワーオンテストを実行します。テスト中、メッセージが表示されます。電源を投入して30秒以内に何も表示されなければ、パワーオンテストに失敗した可能性があります。ジャンパー設定や接続を確認し、販売店に相談して下さい。
 7. パワーオン中に Delete キーを押しつづけるとBIOSセットアップになります。BIOSの設定については、**4. BIOS SETUP**で説明します。
- * **コンピューターの電源を切るとき**：ATX電源の場合には、OSを終了させてから電源スイッチを押します。Windows 95の場合には、「スタート」-「Windowsの終了」を選択し、「電源を切れる状態にする」を選択します。Windowsが終了すると電源も止まります。

注：ATX電力供給でシャットダウンしているときは、「コンピューターの電源を切る準備ができました」というメッセージは現れません。

44. BIOSセットアップ

4.1 BIOSの管理とアップデート

4.1.1 コンピューターシステムを最初に使用するとき

コンピューターを最初に使用する際、再インストールが必要となったときのために、フラッシュメモリアイターユーティリティ (AFLASH.EXE) を使用し、BIOSを起動可能なフロッピーディスクにコピーすることを推奨します。AFLASH.EXEは、プログラム可能フラッシュROMにBIOSファイルを書き込んだり、ROM内のBIOSファイルコピーしたりする、フラッシュメモリアイターユーティリティです。このファイルはDOSモードでのみ動作します。マザーボードのBIOSバージョンは、起動中画面左上角に表示されるコードの末尾4数字で示されます。数字が大きいほど新しいBIOSファイルです。

1. DOSプロンプトで**FORMAT A:/S**と入力し、起動ディスクを作成します。そのディスクには、AUTOEXEC.BATとCONFIG.SYSをコピーしないでください。
2. **COPY D:\AFLASH\AFLASH.EXE A:**と入力し、作成した起動ディスクにファイルをコピーします(CD-ROMドライブをDとします)。

注：AFLASHは、DOSモードでのみ動作します。WindowsのDOSプロンプトやDOSモードでも、何らかのプログラムが起動時に読み込まれるような状態では動作しません。先に作成したフロッピーを使ってDOSモードで起動してください。

3. フロッピーからコンピューターを再起動します。注：システムがフロッピーから起動できるようにBIOS設定されていなくてはなりません。
4. DOSモードで、**A:\AFLASH <Enter>**と入力し、AFLASHを起動します。



```
      BIOS ACPI BIOS
      FLASH MEMORY WRITER V1.28
      Copyright (C) 1994-95, GIGATEK COMPUTER INC.

Flash Memory: 256KB/256KB/256KB or 512KB/256KB or Intel 82801E

Current BIOS Version: ASUS 300-EX ACPI BIOS Revision 100X
BIOS Model          : 300-XX
BIOS Build Date     : 09/25/98

(Choose one of the following)

1. Save Current BIOS To File
2. Update BIOS, including Boot Block and ECDS

Enter choice: 111

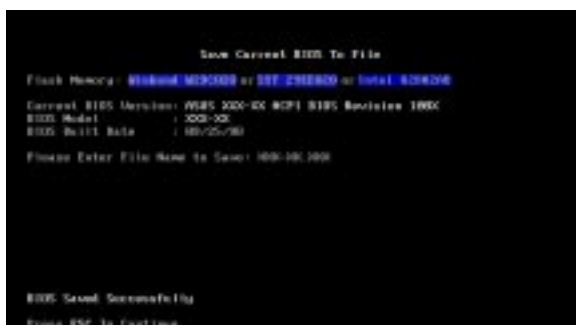
Press ESC to Exit
```

重要! FlashMemoryの後にUNKNOWNと表示された場合、プログラムできないか、またはACPI BIOSでサポートされていないかのどちらかです。それゆえ、フラッシュメモリアイターユーティリティで書き換えることはできません。

4. BIOSセットアップ
BIOSのアップデート

4. BIOSセットアップ

5. メインメニューから**1.Save Current BIOS to File**を選択し、<Enter>を押してください。**Save Current BIOS To File**画面が表示されます。



6. ファイル名とパス(例 **A:¥XXX-XX.XXX**)を入力し、<Enter>を押してください。

4.1.2 BIOSアップデート手順

警告! 新しいBIOSリビジョンで問題が解決するということが明白な場合にのみBIOSをアップデートしてください。不必要にBIOSをアップデートすると、マザーボードに問題が生じる場合があります！

1. インターネット(WWW/FTP)(3ページASUSへの連絡を参照)から、最新BIOSファイルをダウンロードし、先のBIOSのコピーの際に作成したディスクにコピーしてください。
2. 先に作成した起動ディスクから起動します。
3. A:\プロンプトで、**AFLASH**を入力し<Enter>を押してください。
4. **メインメニュー**で**2**を選択し、<Enter>を押してください。**Update BIOS Including Boot Block and ESCD**画面が表示されます。
5. 新しいBIOS名とパス(例 **A:\XXX-XX.XXX**)を入力し、<Enter>を押してください。

注：作業をキャンセルするには<Enter>を押してください。



4. BIOSセットアップ

6. BIOSをアップデートするにはYを入力してください。

```
Update BIOS including Boot Block and ESCD
Flash Memory: Winbond W25Q64CV or SST 35VF064G or Intel W25Q64G

BIOS Version:
CURRENT : 4002-000-000 ACPI BIOS Revision 1800
Last used : 4002-000-000 ACPI BIOS Revision 1800

BIOS Model:
CURRENT : 4002-000
Last used : 4002-000

Date of BIOS Build:
CURRENT : 05/25/08
Last used : 05/25/08

Notice: Boot Block is different. Check use of 0001.B10 in FDD.
Use use only (FDD) : F1

Press ESC to Return to Main Menu
```

7. ユーティリティがフラッシュROMに新しいBIOS情報を書き込み始めます。必要なときは、ブートブロックは自動的にアップデートされます。アップデートが失敗したためにシステムが起動しなくなる可能性を最小にするためです。プログラミングが終了すると *Flashed Successfully* と表示されます。

```
Update BIOS including Boot Block and ESCD
Flash Memory: Winbond W25Q64CV or SST 35VF064G or Intel W25Q64G

BIOS Version:
CURRENT : 4002-000-000 ACPI BIOS Revision 1800
Last used : 4002-000-000 ACPI BIOS Revision 1800

BIOS Model:
CURRENT : 4002-000
Last used : 4002-000

Date of BIOS Build:
CURRENT : 05/25/08
Last used : 05/25/08

Notice: Boot Block is different. Check use of 0001.B10 in FDD.
Use use only (FDD) : F1
Block Erasing --- Done
Programming --- 200FF
Flashed Successfully

Press ESC to Continue
```

8. 後は画面の指示にしたがって進めてください。

```
4002-000-000
FLASH MEMORY WRITER V1.20
Copyright (C) 1994-99, SUGEKI COMPUTER INC.

Flash Memory: Winbond W25Q64CV or SST 35VF064G or Intel W25Q64G

Current BIOS Version: 4002-000-000 ACPI BIOS Revision 1800
BIOS Model: 4002-000
BIOS Build Date: 05/25/08

Choose one of the following:
1. Save Current BIOS to File
2. Update BIOS including Boot Block and ESCD

Enter choice: 2

You have finished the update. It is recommended that you turn off
the power, wait 30Sec and then setup defaults to have CMOS
updated with new BIOS above info.

Press ESC to Exit
```

警告! BIOSアップデート中に問題が発生しても、システムの電源を切ってはいけません。システムの起動ができなくなるかもしれません。以上の課程を繰り返し、依然として問題が生じるなら先に作成した元のBIOSファイルをアップロードしてください。フラッシュメモリーライターユーティリティが完全なBIOSファイルをダウンロードできなかったときは、システムは起動できないかもしれません。販売店にご相談下さい。

4. BIOSセットアップ

4.2 BIOSセットアッププログラム

4.1フラッシュメモリアイターユーティリティで説明しましたが、本マザーボードはプログラム可能EEPROMをサポートします。

マザーボードを最初に設置したり、システムを再構成したり、**Run Setup**と表示された場合に、BIOS設定を行います。ここでは、このセットアップユーティリティを使い、システムを構成する方法を説明します。

現在セットアッププログラムを使う必要はないとしても、将来、コンピューターの環境構成を変えることがあるかもしれません。例えば、セキュリティパスワードを設定したり、電源管理設定を変更するような場合です。BIOSセットアッププログラムを使い設定を変更すると、その設定がEEPROMのCMOS RAMに記録されます。

本マザーボードのEEPROMは、セットアップユーティリティを格納しています。コンピューターの電源を入れると実行されるパワーオンセルフテスト(POST)中にDeleteキーを押すと、セットアップユーティリティが起動します。Deleteキーを押すタイミングが遅れると、テストルーチンが続行されます。セットアップをする必要があるならば、<Ctrl> + <Alt> + <Delete>キーを押すか、または筐体のリセットボタンを押してシステムを再起動してください。また、どうしても前述の2つの方法がうまくいかない場合は、電源を切って再び電源を入れることにより再起動することもできます。

セットアッププログラムは、設定変更を容易に行えるように作られています。このBIOSセットアッププログラムは、様々なメニューを選択し、項目を設定するメニュー式プログラムです。

BIOSセットアッププログラムにアクセスするには、システム起動時のPOST後に<Delete>キーを押します。

注：BIOSソフトウェアは絶えずアップデートされているので、ここで紹介する画面は参照用です。実際の画面とは異なることがあります。

4. BIOSセットアップ

4.2.1 BIOS Menu Bar

画面の最上部には、次の項目を選択できるメニューバーがあります。

- MAIN** 基本的システム構成を設定します。
- ADVANCED** 詳細設定を行います。
- POWER** Power Management(節電)機能を設定する場合に使用します。
- BOOT** オペレーティングシステムを読み込む機器に関して設定します。
- EXIT** 表示されているメニューを終了したり、セットアッププログラムを終了する際に使用します。

メニューバーの項目にアクセスするには、左右矢印キーで目的の項目を選択してください。選択した項目は反転表示されます。

4.2.2 Legend Bar

セットアップ画面の下部に、操作キーの説明があります。この操作キーでセットアップメニューを操作します。操作キーとその機能は次の通りです。

操作キー	機能説明
<F1>・<Alt + H>	セットアップの一般ヘルプ画面を表示します。
<Esc>	Exitメニューかメインメニューに移動します。
・ (左右矢印キー)	左右の項目を選択します。
・ (上下矢印キー)	項目を選択します。選択された項目は反転表示されます。
- (マイナスキー)	反転表示された項目の数値を少なくします。
+ (プラスキー)・スペースキー	反転表示された項目の数値を多くします。
<Enter>	反転表示項目の選択メニューを表示します。
<Home>・<PgUp>	カーソルを最初の項目へ移動します。
<End>・<PgDn>	最後の項目へカーソルを移動します。
<F5>	表示されている画面に初期値(Setup Defaults)を読み込みます。
<F10>	設定を保存しセットアップを終了します。

4. BIOSセットアップ

General Help

各項目固有のヘルプであるItem Specific Helpに加え、一般ヘルプであるGeneral Helpを搭載しています。この画面は、メニュー上で<F1>か<Alt> + <H>を押すと表示できます。General Help画面には、各操作キーと機能が表示されます。

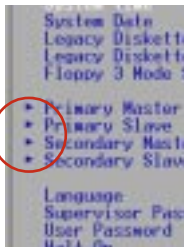
Saving Changes and Exiting the Setup Program

セットアップの終了に関する詳細は、4.7 Exit Menuを参照してください。

スクロールバー

開いているウインドウに表示しきれない情報がある場合には、スクロールバーがヘルプ画面の右に表示されます。<PgUp>・<PgDn>、上下矢印キーで下面をスクロールさせて、すべての情報を参照してください。<Home>で最初のページに、<End>で最後のページへ移動します。ヘルプ画面を終了するには<Enter>か<Esc>を押してください。

Sub-Menu



各項目の左側に印がついている場合があります(左図参照)。この印は、印のついている項目にSubMenu(サブメニュー)があることを示しています。サブメニューは、その項目にさらに設定する項目がある場合に使用されます。サブメニューを表示するには、項目を反転表示させ<Enter>を押してください。サブメニューが表示されます。サブメニューが表示されたら、メインメニューと同じように操作キーでサブメニュー項目を設定してください。メインメニューに戻るには<Esc>キーを使います。

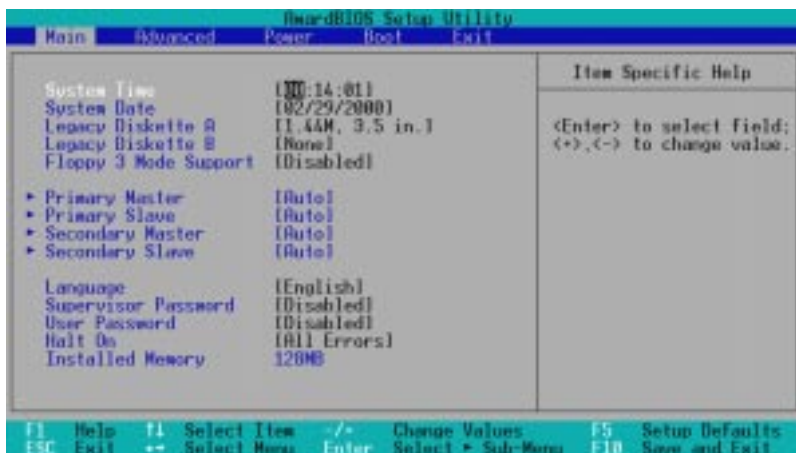
操作キーと対応する機能について、慣れるまで時間が必要な場合があります。メニュー。サブメニューを操作し、練習してみてください。偶然に意図しない設定をした場合には、<F5>キーを押すと初期設定に戻ります。設定画面で、各メニューの右側Item Specific Helpに説明が表示されます。この画面は現在反転表示された項目のヘルプテキストを示します。

注：カッコ中に初期設定値を示します。

4. BIOSセットアップ

4.3 Mainメニュー

セットアッププログラムにアクセスすると次の画面が表示されます：



System Time [XX:XX:XX]

システムクロックを設定します(通常は現在時刻)。形式は、時、分、秒です。設定可能な値は次の通りです。**時：(00～23)、分：(00～59)、秒：(00～59)**。<Tab>または<Shift> + <Tab>キーで、時、分、秒項目を移動できます。

System Date [XX/XX/XXXX]

日付を設定します(通常は現在日付)。形式は、月、日、年です。設定可能な値は次の通りです。**月：(1～12)、日：(1～31)、年：(100年範囲)**。<Tab>または<Shift> + <Tab>キーで、月、日、年項目を移動できます。

Legacy Diskette A [1.44M, 3.5 in.], Legacy Diskette B [None]

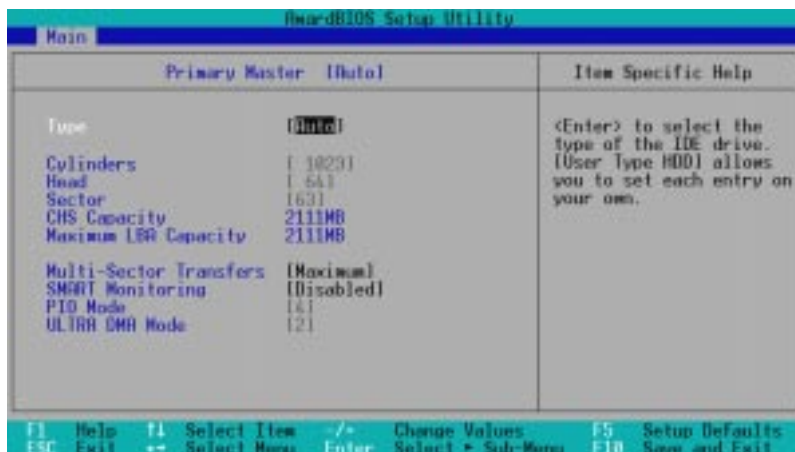
取り付けられているフロッピードライブを設定します。設定オプション：[None] [360K, 5.25 in.] [1.2M, 5.25 in.] [720K, 3.5 in.] [1.44M, 3.5 in.] [2.88M, 3.5 in.]

Floppy 3 Mode Support [Disabled]

日本の旧タイプフロッピードライブをサポートする場合の指定です。Floppy 3 Modeサポートでは、3.5インチディスク1.2 MB(1.44 MBではなく)の読み書きができます。設定オプション：[Disabled(無効)] [Drive A] [Drive B] [Both(両方)]

4. BIOSセットアップ

4.3.1 Primary & Secondary Master/Slave



注：ハードディスクドライブを構成する前に、ハードディスク情報をドライブメーカーから入手してください。不正確に設定すると、システムがハードディスクを認識できません。[Auto]を選択するとBIOSが自動的にドライブタイプを検出します。

Type [Auto]

IDEハードディスクドライブを自動検出させるには[Auto]を選択してください。自動検出が成功したら、正しい値がサブメニューに表示されます。自動検出が失敗した場合には、ハードディスクが非常に古いか非常に新しいかです。BIOSをアップデートするか、手でIDEハードディスクパラメーターを入力してください。

注：IDEハードディスク情報をBIOSに格納した後、新しいハードディスクでデータを読み書きするには、領域を設定し(FDISKで行います)、フォーマットする必要があります。プライマリIDEハードディスクドライブには、領域設定した後アクティブに指定する必要があります(FDISKで行います)。

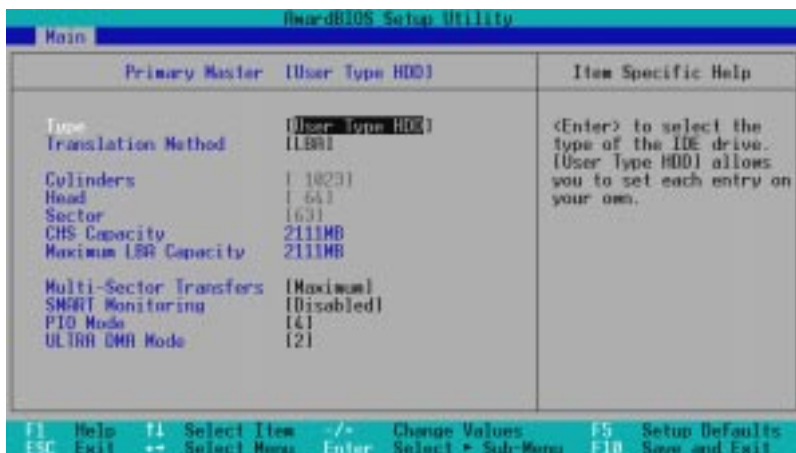
Type項目の他のオプションは、以下の通りです

[None] - IDE機器を使用禁止にします。

4. BIOSセットアップ

重要：ハードディスクが、かなり古いシステム上でフォーマットされている場合は、不正確なパラメーターが検出される可能性があります。手動で正しいパラメーターを入力するか、ハードディスク上のデータが不要なら、ローレベルフォーマットしてください。表示されたパラメーターが、ハードディスクがフォーマットされたときのそれと異なるときは、そのディスクは読めません。自動検出されたパラメーターが使用するディスクのものと一致しない場合には、[User Type HDD]を選択し、手動で入力してください。

[User Type HDD]



シリンダーやヘッド、トラックごとのセクター数を直接入力します。入力する内容に関し、ドライブの付属文書やドライブ上の記述を参照してください。ドライブを接続しない状態の場合には、[None]を選択してください。

Translation Method [LBA]

ハードディスクドライブのタイプを選択してください。論理ブロックアドレス指定(LBA)が有効のとき、シリンダー、ヘッドかセクターとは関係なく、ハードドライブの28ビットアドレス指定が使われます。LBAではハードディスクのアクセススピードを低下する可能性があります。しかし、LBAモードは、504 MBを超える容量を搭載したドライブを使用する場合に必要です。設定オプション：[LBA][LARGE][Normal][Match Partition Table][Manual]

Cylinders

シリンダー数を指定します。入力する値は、ドライブの付属文書を参照してください。**注：**ここを変更するには、**Type**は[User Type HDD]に、**Translation Method**は[Manual]に設定してください。

4. BIOSセットアップ

Head

読出/書込ヘッド数を指定します。入力する値は、ドライブの付属文書を参照してください。**注**：ここを変更するには、**Type**は[User Type HDD]に、**Translation Method**は[Manual]に設定する必要があります。

Sector

トラックあたりのセクター数を指定します。入力する値は、ドライブの付属文書を参照してください。**注**：ここを変更するには、**Type**は[User Type HDD]に、**Translation Method**は[Manual]に設定する必要があります。

CHS Capacity

入力された情報から、自動的にBIOSにより計算された最大CHS容量を示します。

Maximum LBA Capacity

入力された情報から、自動的にBIOSにより計算された最大LBA容量を示します。

Multi-Sector Transfers [Maximum]

ドライブによりサポートされる、ブロックごとの最大セクター数を自動的に設定します。また、手動で設定することもできます。自動的に設定した値が、そのドライブの最速値ではないことがあります。ハードディスクに最適の値を手動で入力する場合には、ドライブ付属文書で値を参照してください。**注**：この項目を変更するには、**Type**は[User Type HDD]に指定してください。設定オプション： [Disabled] [2 Sectors] [4 Sectors] [8 Sectors] [16 Sectors] [32 Sectors] [Maximum]

SMART Monitoring [Disabled]

内蔵ハードディスクドライブ監視技術S.M.A.R.T. (Self-Monitoring, Analysis and Reporting Technology)の有効(Enabled)・無効(Disabled)を指定します。この機能で使われるシステムリソースが、システム性能を低下させる可能性があるため、この機能は通常は無効に指定されています。設定オプション： [Disabled] [Enabled]

PIO Mode [4]

ここでは、IDE機器のPIO (Programmed Input/Output) モードを指定します。0から4と増加するにしたがい、性能も増加します。設定オプション： [0] [1] [2] [3] [4]

Ultra DMA Mode [Disabled]

Ultra DMAは、互換IDE機器でより速い転送速度とデータ完全性を実現します。Ultra DMA機能を抑制するには[Disabled(無効)]に設定してください。**注**：この項目を変更するには、**Type**は[User Type HDD]に設定する必要があります。設定オプション： [0] [1] [2] [3] [4] [Disabled]

4. BIOSセットアップ

Typeの他の設定オプション：

[CD-ROM] - IDE CD-ROM機器

[LS-120] - LS-120互換フロッピーディスクドライブ

[ZIP-100] - ZIP-100互換ディスクドライブ

[MO] - IDE MOドライブ

[Other ATAPI Device] - ここに示されないIDE機器

このサブメニュー上で設定した後、<Esc>キーでMainメニューに戻ってください。Mainメニューが表示されたら、ハードディスクドライブの値がサブメニューで設定した値になっています。

Language [English]

ここでは、BIOSの展示された言語の選択を許します。現在ではEnglishのみ有効です。

Supervisor Password [Disabled], User Password [Disabled]

ここではパスワードを設定します。パスワードを設定するには、該当する項目を反転表示させ<Enter>を押してください。

パスワード入力し<Enter>を押してください。最高8文字までの英数字を入力できます。記号などのキーは、無視されます。パスワードを確認するため、再度パスワードを入力し、<Enter>を押してください。パスワードが、[Enabled(有効)]に設定されます。このパスワードで、BIOSセットアップメニューに完全アクセスすることができます。

パスワードを消去したいときは、この項目を反転表示させ<Enter>を押してください。上記と同じダイアログボックスが表示されます。<Enter>を押すと、パスワードは[Disabled(無効)]に設定されます。

パスワードについての注意

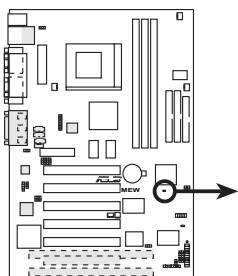
BIOSセットアッププログラムでは、Mainメニューでパスワードを指定することができます。そのパスワードは、BIOSとある種のSecurityメニューオプションへのアクセスを制御します。パスワードには、大文字・小文字の区別はありません。パスワードを小文字で入力しても大文字で入力しても同じです。

BIOSセットアッププログラムでは、SupervisorパスワードとUserパスワードの、2つの異なるパスワードを指定することができます。Disabled(無効)のときは、誰でもすべてのBIOSセットアッププログラムにアクセスできます。Enabled(有効)のとき、BIOSセットアッププログラムに入り、Securityメニュー項目にアクセスする場合には、Supervisorパスワードが必要です。

4. BIOSセットアップ

パスワードを忘れた場合は？

パスワードを忘れた場合には、CMOS Real Time Clock (RTC) RAMを消去することにより、パスワードをクリアすることができます。パスワード情報を含み、RAMデータは、ボード上のボタン電池により動力を供給されています。RTC RAMを消去するには：(1) コンピューターの電源プラグを抜きます。(2) 半田の部分をショートします。(3) コンピューターの電源を入れます。(4) システム起動の間にDeleteキーを押してBIOSセットアップに入り、再度設定します。



MEW Clear RTC RAM

Short solder points
to Clear CMOS

CLRRTC



Halt On [All Errors]

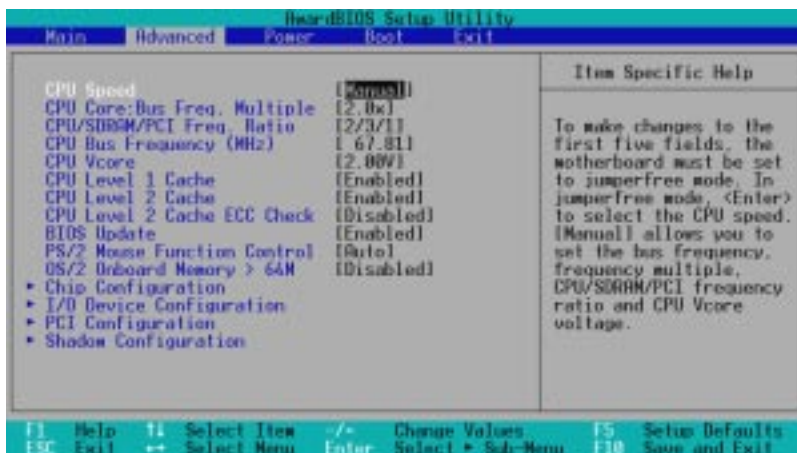
ここでは、システムを停止させるエラーを指定します。設定オプション：
[All Errors] [No Error] [All but Keyboard] [All but Disk] [All but Disk/
Keyboard]

Installed Memory [XXX MB]

起動時に検出された、コンベンショナルメモリー容量を表示します。この項目を変更する必要はありません。ここは、表示のみで変更できません。

4. BIOSセットアップ

4.4 Advancedメニュー



CPU Speed [Manual]

本マザーボードがJumperFree™モードに設定されているとき、ここでCPUの内部スピードを選択することができます。次の4項目を変更したい場合には、[Manual]を選択してください。設定オプション：[Manual] [266MHz] [300MHz] [333MHz] [366MHz] [400MHz] [433MHz] [466MHz]

CPU Core:Bus Freq. Multiple (CPU Speedが [Manual] のとき)

この項目は、ロック解除プロセッサに対してのみ設定できます。使用するソケット370プロセッサの周波数倍数がロックされている場合には、ここでFrequency Multiple(周波数倍数)を設定しても無効です。この項目は、CPU内部周波数・外部周波数間の周波数倍数を設定します。使用するCPUに応じたCPUバス周波数と組み合わせで設定してください。設定オプション：[2.0x] [2.5x] [3.0x]...[7.0x] [7.5x] [8.0x]

CPU/SDRAM/PCI Freq. Ratio (CPU Speedが [Manual] のとき)

この項目は、メモリークロック周波数をCPUバス周波数と同期にするか非同期にするかを指定します。メモリーデータ転送方法には、16のCPUバス周波数選択があります。設定オプション：[2/3/1] [3/3/1]

CPU Bus Frequency (MHz) (CPU Speedが [Manual] のとき)

CPUやDRAM、チップセットにクロックジェネレーターが送り出すクロックを指定します。バス周波数(外部周波数)にバス倍数を掛けた値が、CPU内部周波数(CPUスピード)に一致します。設定オプションは、CPU/SDRAM/PCI Frequency Ratioに応じて変化します。

4. BIOSセットアップ

CPU Vcore (CPU Speed がManual のとき)

CPUに供給されるコア電圧を表示します。手動で設定する場合には、使用するCPUの付属文書で利用できる電圧範囲を調べてください。設定オプション：[2.40V] [2.30V] [2.20V] [2.10V] [2.05V] [2.00V]

CPU Level 1 Cache, CPU Level 2 Cache [Enabled]

これらの項目では、CPUのLevel1とLevel2内蔵キャッシュの有効(Enabled)/無効(Disabled)を選択することができます。設定オプション：[Disabled] [Enabled]

CPU Level 2 Cache ECC Check [Disabled]

ここでは、CPU L2キャッシュのECCチェックについて設定します。設定オプション：[Disabled] [Enabled]

BIOS Update [Enabled]

プロセッサに必要なデータを供給するよう、BIOSにアップデートローダーとしての機能が搭載されています。初期設定の[Enabled(有効)]では、システム起動中、BIOSはすべてのプロセッサにアップデートをロードします。設定オプション：[Disabled] [Enabled]

PS/2 Mouse Function Control [Auto]

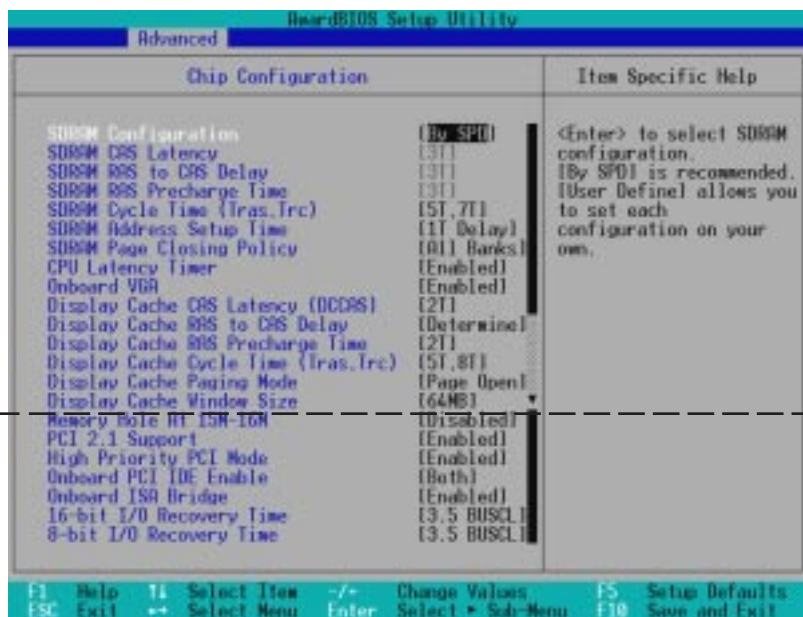
初期設定の[Auto]では、起動時にPS/2マウスを検出します。検出されると、IRQ12がPS/2マウスのために使われます。PS/2マウスが検出されなければ、IRQ12は拡張カードのために予約されます。[Enabled]に設定した場合、起動時にPS/2マウスが検出されなくてもIRQ12が確保されます。設定オプション：[Enabled] [Auto]

OS/2 Onboard Memory > 64M [Disabled]

64MBを超えるDRAMをインストールしてOS/2を使用するとき、この設定項目を[Enabled]にします。それ以外は[Disabled]にしておきます。設定オプション：[Disabled] [Enabled]

4. BIOSセットアップ

4.4.1 Chip Configuration



(すべての内容を参照するためにスクロールさせてください)

SDRAM Configuration [By SPD]

2~4で最適のタイミングをセットします。使用するメモリーモジュールに
したがって、初期設定でお使いください。初期設定は[By SPD]で、SPD(Serial
Presence Detect)機器の内容を解読し、2~4で最適設定します。メモリーモ
ジュール上のEEPROMは、メモリータイプ、サイズ、スピード、電圧イン
ターフェース、モジュールバンクなどの、モジュール関連パラメーター情報
を格納しています。設定オプション：[User Define] [7ns (143MHz)] [8ns
(125MHz)] [By SPD]

SDRAM CAS Latency

SDRAM読取りコマンドから、データが実際に利用可能になるまでの待
ち時間を設定します。注：この項目を変更するには、**SDRAM Configura-
tion**を[User Define]に設定してください。

SDRAM RAS to CAS Delay

SDRAMアクティブコマンドと、読取り/書き込みコマンド間の待ち時間をコ
ントロールします。注：この項目を変更するには、**SDRAM Configura-
tion**を[User Define]に設定してください。

4. BIOSセットアップ

SDRAM RAS Precharge Time

SDRAMへのprechargeコマンド発行後のアイドルクロックをコントロールします。**注**：この項目を変更するには、**SDRAM Configuration**を [User Define]に設定してください。

SDRAM Cycle Time (Tras, Trc) [5T, 7T]

この機能は、アクセスサイクルにつき使用されるSDRAMクロック数を制御します。設定オプション：[5T, 7T] [6T, 8T]

SDRAM Address Setup Time [1T Delay]

設定オプション：[No Delay] [1T Delay]

SDRAM Page Closing Policy [All Banks]

グラフィック、メモリーコントローラーハブがページミスの後、プリチャージするバンクについて指定します。設定オプション：[One Bank] [All Banks]

CPU Latency Timer [Enabled]

設定オプション：[Disabled] [Enabled]

Onboard VGA [Enabled]

ボード上のVGAを使う場合には初期設定を変更しないでください。この項目をDisabled(無効)に設定すると、すべてのディスプレイキャッシュ構成は無効になります。設定オプション：[Disabled] [Enabled]

Display Cache CAS Latency (DCCAS) [2T]

設定オプション：[2T] [3T]

Display Cache RAS to CAS Delay [Determined by DCCAS]

初期設定の[Determined by DCCAS]で、この項目は**Display Cache CAS Latency (DCCAS)**と同じ構成になります。設定オプション：[Determined by DCCAS] [2T]

Display Cache RAS Precharge Time [2T]

設定オプション：[2T] [3T]

Display Cache Cycle Time (Tras, Trc) [5T, 8T]

設定オプション：[5T, 8T] [7T, 10T]

Display Cache Paging Mode [Page Open Mode]

設定オプション：[Page Open Mode] [Page Close Mode]

Display Cache Window Size [64MB]

AGPグラフィックスデーターにマッピングされたメモリーサイズを選択します。設定オプション：[64MB] [32MB]

4. BIOSセットアップ

Video Memory Cache Mode [UC]

Onboard VGAが[Disabled]のとき本項目が表示されます。USWC (uncacheable, speculative write combining)は、ビデオメモリーのための新しいキャッシュテクノロジーです。ディスプレイデータを格納することによってディスプレイ速度を大幅に改善することができます。使用するディスプレイカードが本機能をサポートしないなら、UC(uncacheable)に設定してください。そうしないと、システムが起動できなくなります。設定オプション：[UC] [USWC]

Memory Hole At 15M-16M [Disabled]

アドレス空間を要求するISA拡張カードに、アドレス空間を予約することができます。設定オプション：[Disabled] [Enabled]

PCI 2.1 Support [Enabled]

パッシブリリースやディレイトランザクションなどを含む、PCI2.1機能の使用、または不使用を設定します。設定オプション：[Disabled] [Enabled]

High Priority PCI Mode [Enabled]

PCIスロット1に、より高い優先権を与えることができます。IEEE-1394 PCIカードを使う場合には、初期設定がよいかもしれません。設定オプション：[Disabled] [Enabled]

Onboard PCI IDE Enable [Both]

各IDEチャンネルを有効にするかどうかの設定です。[Both]で両チャンネルが有効です。設定オプション：[Both] [Primary] [Secondary] [Disabled]

Onboard ISA Bridge [Enabled]

ISAカードを使用しない場合には、[Disabled(無効)]設定でもかまいません。本項目が[Disabled(無効)]のとき、**8-bit・16-bit I/O Recovery Time**設定は無効です。設定オプション：[Disabled] [Enabled]

8-bit, 16-bit I/O Recovery Time [3.5 BUSCLK]

初期設定を変更しないでください。

4. BIOSセットアップ

4.4.2 I/O Device Configuration



(すべての内容を参照するためにスクロールさせてください)

Onboard AC97 Modem Controller, Audio Controller [Auto]

[Auto]では、モデム/オーディオ機器を使用しているかどうかをマザーボードBIOSが検出します。モデム/オーディオ機器が検出されたら、ボード上のモデム/オーディオコントローラーが有効になります。モデム/オーディオ機器を検出できなかったときは、ボード上のモデム/オーディオコントローラーは無効です。モデムとオーディオコネクタに他のコントローラーカードを使用する場合は、[Disabled(無効)]に設定してください。設定オプション：[Auto] [Disabled]

Onboard FDC Controller [Enabled]

[Enabled]のとき、セパレートコントローラーカードの代わりにオンボードフロッピーディスクドライブコネクタにフロッピーディスクドライブを接続することができます。設定オプション：[Disabled] [Enabled]

Onboard FDC Swap A & B [No Swap]

フロッピーディスクドライブのハードウェアドライブ名を逆にすることができます。設定オプション：[No Swap(逆にしない)] [Swap AB(逆にする)]

Floppy Disk Access Control [R/W]

[Read Only]に設定すると、フロッピーディスクドライブからデータを読みとることができますが、FDDにデータを書き込むことはできません。初期設定値 [R/W]で、読取り・書き込みができます。設定オプション：[R/W] [Read Only]

Onboard Serial Port 1 [3F8H/IRQ4], Onboard Serial Port 2 [2F8H/IRQ3]

ボード上のシリアルコネクタのアドレスを設定します。シリアルポート1とシリアルポート2には、異なったアドレスが必要です。設定オプション：[3F8H/IRQ4] [2F8H/IRQ3] [3E8H/IRQ4] [2E8H/IRQ10] [Disabled]

4. BIOSセットアップ

UART2 Use Standard Infrared [Disabled]

[Enabled(有効)]に設定すると、ボード上の標準赤外線機能を起動し、第2シリアルUARTがマザーボード上の赤外線モジュールコネクタをサポートするように設定します。第2シリアルポートをボード上のCOM2コネクタに接続している場合には、赤外線機能を有効にしても機能しません。**3.8 外部コネクタのIrDA準拠赤外線コネクタ**を参照してください。設定オプション：[Disabled] [Enabled]

Onboard Parallel Port [378H/IRQ7]

ボード上のパラレルポートコネクタのアドレスを設定します。この機能を無効にすると、**Parallel Port Mode**と**ECP DMA Select**設定も無効になります。設定オプション：[Disabled] [3BCH/IRQ7] [378H/IRQ7] [278H/IRQ5]

Parallel Port Mode [ECP+EPP]

パラレルポートの動作モードを設定します。[Normal]は、一方向、通常スピード動作です。[EPP]は、双方向パラレルポート動作です。[ECP]は、双方向DMAモード動作です。[ECP+EPP]は、双方向、通常スピード動作です。設定オプション：[Normal] [EPP] [ECP] [ECP+EPP]

ECP DMA Select [3]

選択されたECPモードのパラレルポートDMAチャンネルを構成できます。先の**Parallel Port Mode**で、[ECP]/[ECP+EPP]を選択した場合のみ、ここを指定することができます。設定オプション：[1] [3] [Disabled]

Onboard Game Port [200H-207H]

ボード上のゲームポートコネクタのアドレスを設定します。設定オプション：[Disabled] [200H-207H] [208H-20FH]

Onboard MIDI I/O [Disabled]

ボード上のMIDIコネクタのアドレスを設定します。設定オプション：[Disabled] [330H-331H] [300H-301H]

Onboard MIDI IRQ [xx]

Onboard MIDI I/Oを[Disabled]に設定すると、本項目も設定できません。設定オプション：[3] [4] [5] [7] [9] [10] [11] [12] [14] [15]

Onboard CIR I/O [Disabled]

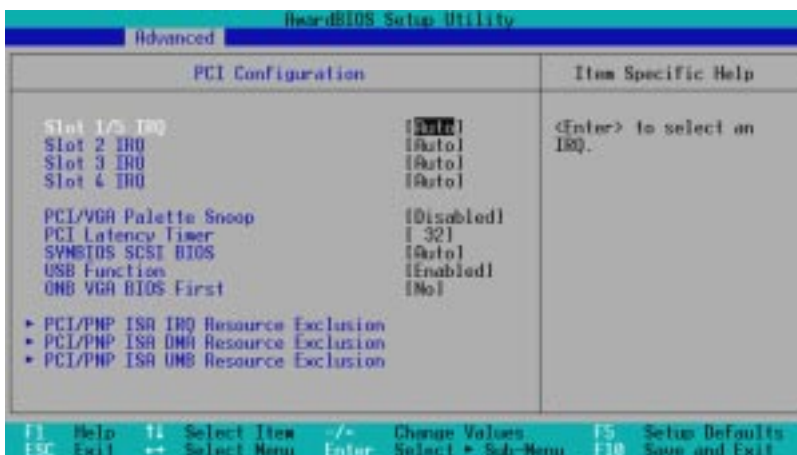
ボード上のコンシューマーIRコネクタのアドレスを設定します。設定オプション：[Disabled] [2E0-2E8H] [3E0-3E8H]

Onboard CIR IRQ [xx]

Onboard CIR I/Oを[Disabled]に設定すると、本項目も設定できません。設定オプション：[3] [4] [5] [7] [9] [10] [11] [12] [14] [15]

4. BIOSセットアップ

4.4.3 PCI Configuration



Slot 1/5, Slot 2, Slot 3, Slot 4 IRQ [Auto]

どのように各PCIスロットのIRQを利用するか決定します。各項目の初期設定は[Auto]で、自動的にIRQが決定されます。設定オプション：[Auto] [NA] [3] [4] [5] [7] [9] [10] [11] [12] [14] [15]

PCI/VGA Palette Snoop [Disabled]

グラフィックスアクセラレータやMPEGビデオカードのような非標準VGAカードでは、正しく色を表示しない可能性があります。[Enabled]でこの問題が修正されます。それ以外は、初期設定[Disabled]を変更しないでください。設定オプション：[Disabled] [Enabled]

PCI Latency Timer [32]

性能・安定性のバランス上、初期設定を変更しないでください。

SYMBIOS SCSI BIOS [Auto]

[Auto]では、Symbios SCSIカードをBIOSが自動検出します。Symbios SCSIカードが検出された場合には、マザーボードSymbios BIOSが有効になります。検出されなかったときは、ボード上のSymbios SCSI BIOSは無効です。

[Disabled]はマザーボードのSymbios SCSI BIOSを使用禁止にし、外部Symbios SCSIカードのBIOSを使用できるようにします。Symbios SCSIカードがBIOSを搭載しないときは、Symbios SCSIカードは無効です。設定オプション：[Auto] [Disabled]

4. BIOSセットアップ

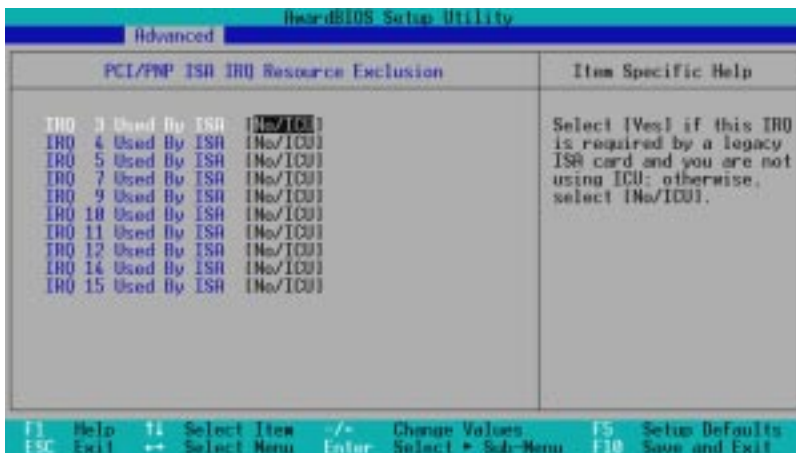
USB Function [Enabled]

本マザーボードは、Universal Serial Bus(USB)機器をサポートしていません。USB機器を使う場合には、[Enabled]に設定してください。設定オプション：[Disabled] [Enabled]

ONB VGA BIOS First [No]

[Yes]に設定すると、他のVGAコントローラーよりボード上のVGA BIOSが優先します。設定オプション：[No] [Yes]

PCI/PNP ISA IRQ Resource Exclusion

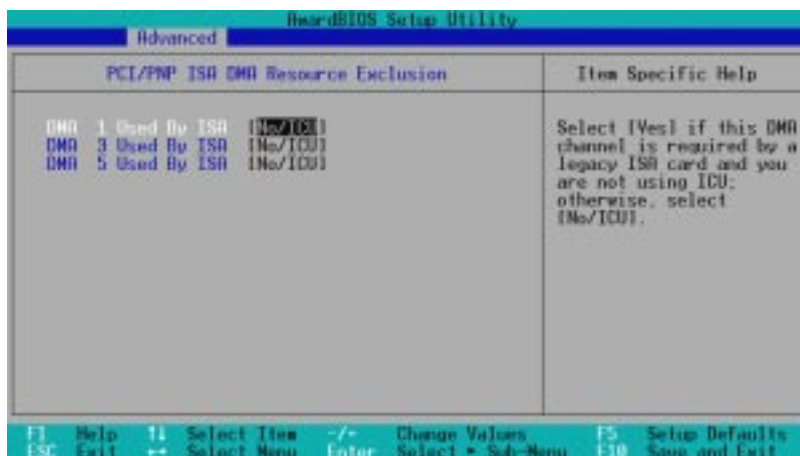


IRQ XX Used By ISA [No/ICU]

各項目で表示されたIRQが、レガシー(非PnP)ISAカードで使われているかどうかを示します。初期設定では、各ISAカードがIRQを使用しないが、ISA環境構成ユーティリティ(ICU)でISAのIRQを指定することになります。使用するレガシーISAカードが固有のIRQを必要とし、ICUを使用しないなら、使用するIRQを[Yes]に設定してください。たとえば、IRQ 10を要求するレガシーISAカードを使用する場合は、**IRQ10 Used By ISA**を[Yes]にを設定してください。設定オプション：[No/ICU] [Yes]

4. BIOSセットアップ

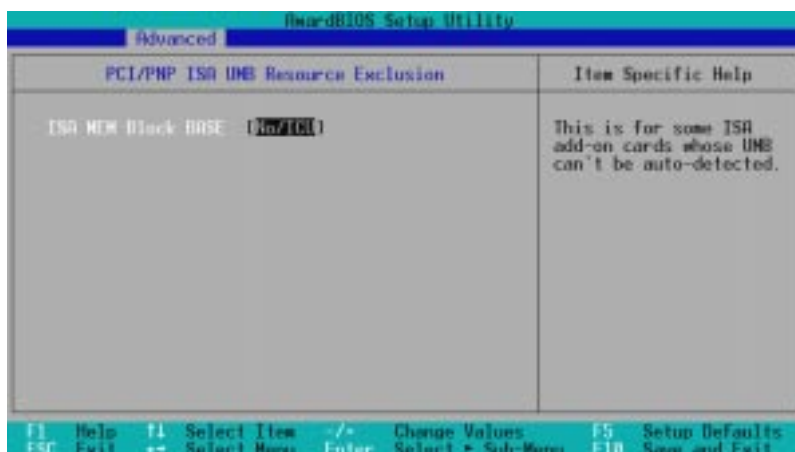
PCI/PNP ISA DMA Resource Exclusion



DMA x Used By ISA [No/ICU]

各項目で表示されたDMAチャンネルがレガシー(非PnP)ISAカードで使われているかどうかを示します。初期設定では、ISAカードが各DMAチャンネルを使用しないか、ISA環境構成ユーティリティ(ICU)でISAのDMAを指定することになります。使用するレガシーISAカードが固有のDMAを必要とし、ICUを使用しないなら、使用するDMAを[Yes]に設定してください。設定オプション：[No/ICU][Yes]

PCI/PNP ISA UMB Resource Exclusion

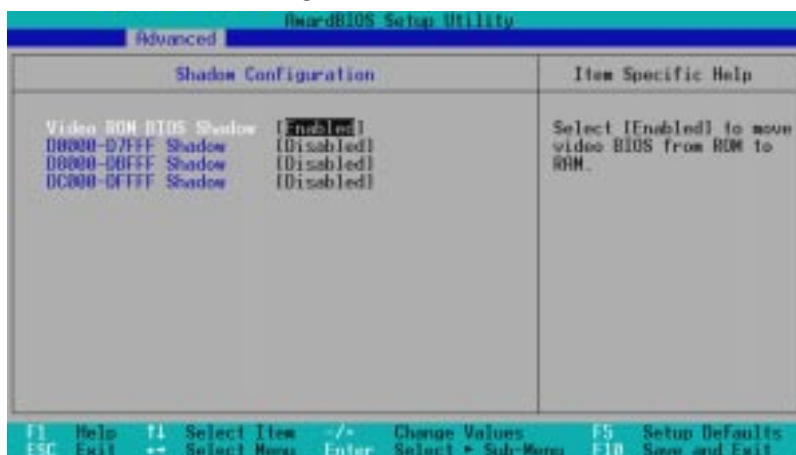


4. BIOSセットアップ

ISA MEM Block BASE [No/ICU]

C800とDFFFの範囲内で、メモリーセグメントを使うレガシーISAカードのベースアドレスとブロックサイズを設定することができます。アドレス範囲の指定が必要なISAカードで、指定にICUを使わない場合には、6つの有効オプションからベースアドレスを選択してください。**ISA MEM Block SIZE**項目がブロックサイズを指定するために表示されます。このアドレス範囲を使用するレガシーISAカードを複数取り付ける場合には、8K、16K、32K、64Kにブロックサイズを増やすことができます。ICUを使用する場合には、**ISA MEM Block BASE**は初期設定[No/ICU]にしてください。
設定オプション：[No/ICU] [C800] [CC00] [D000] [D400] [D800] [DC00]

4.4.4 Shadow Configuration



Video ROM BIOS Shadow [Enabled]

[Enabled]設定で、ビデオBIOSの位置をROMからRAMへ変更することができます。ROMよりRAMはアクセスが速いので、RAMに再配置すればシステム性能が向上します。設定オプション：[Disabled] [Enabled]

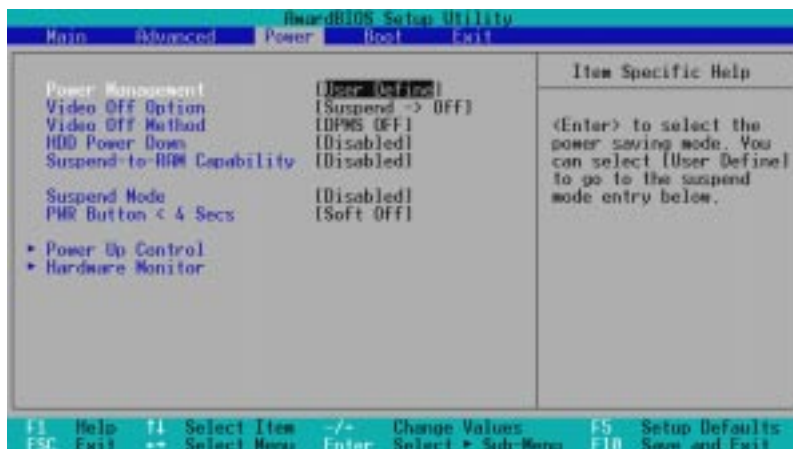
D0000-DFFFF Shadow [Disabled]

他の拡張カードROMをシャドウするための設定です。ROMを搭載した他の拡張カードをインストールする場合には、そのROMがシャドウに使用するアドレスを知っている必要があります。ROMをシャドウすると、640K～1024Kの間で使用される分、使用可能メモリーが減ります。設定オプション：[Disabled] [Enabled]

4. BIOSセットアップ

4.5 Powerメニュー

Power menuでは、電源消費を削減するように設定できます。ディスプレイをオフにしてハードディスクをシャットダウンします。



Power Management [User Define]

自動節電機能を使用する場合には、このオプションを有効にする必要があります。[Disabled(無効)]に設定すると、電源管理機能は他の項目設定に関係なく無効になります。[User Define]設定で、Powerメニュー中の指定が有効になります。[Max Saving]設定で、最大量節電されます。Suspend Mod項目は、最大節電できる規定値に設定されます。

パワーマネジメントモードのマスターコントロールとして機能します。[Max Saving]は、短時間システムを使用しない場合パワーセービングモードに入ります。[Min Saving]は[Max Saving]とほぼ同じものですが、長時間システムを使用しない場合に使用します。[Disabled]はパワーセービング機能を利用しません。[User Define]は、プリファレンスに従ってパワーセービング機能を利用することができます。設定オプション：[User Define] [Disabled] [Min Saving] [Max Saving]

重要：Advanced Power Management (APM) は、BIOSパワーマネジメントによってサスペンドモードになったとき、システムタイムアップデートを保存したままインストーलしなければなりません。DOS環境では、CONFIG.SYSファイルにDEVICE=C:\DOS\POWER.EXEを追記する必要があります。Windows 3.xとWindows 95では、APM機能をWindowsにインストールする必要があります。Windows 98以後では、APMが自動的にインストールされます。コントロールパネルに「パワーマネジメント」というバッテリーと電源コードのアイコンがあります。パワーマネジメントプロパティダイアログボックスの「詳細設定」を選択し、設定してください。

4. BIOSセットアップ

Video Off Option [Suspend -> Off]

モニターパワーマネジメントとして、Video OFF機能をいつ動作させるかを決定します。設定オプション：[Always On] [Suspend -> Off]

Video Off Method [DPMS OFF]

VideoOFF機能を利用します。DPMS(Display Power Management System)機能は、BIOSがビデオディスプレイカードをコントロールできるようにします。[Blank Screen]は画面表示を消すだけです(パワーマネジメント機能の無いモニターや、グリーン機能を利用できない場合に利用します。システムをセットアップする場合、スクリーンセーバーはブランクスクリーンを選択してください)。[V/H SYNC+Blank]は画面表示を消し、スキャンをOFFにします。設定オプション：[Blank Screen] [V/H SYNC+Blank] [DPMS Standby] [DPMS Suspend] [DPMS OFF] [DPMS Reduce ON]

HDD Power Down [Disabled]

ここでユーザーの指定した不活動時間が経過すると、IDEハードディスクドライブがシャットダウンします。本機能はSCSIハードドライブとは無関係です。設定オプション：[Disabled] [1 Min] [2 Min] [3 Min]...[15 Min]

Suspend-to-RAM Capability [Disabled]

Suspend-to-RAM(RAMへのサスペンド：STR)は、エネルギー節約機能です。Suspend-to-RAM状態では、システムRAMを除いてコンピューター上の全機器はオフになります。したがって、PCは5W未満の電源を消費します。[Auto]は、電源装置が+5VSB端子に少くとも720 mAを供給できるSTRをサポートするタイプかどうかをBIOSが検出します。電源装置がこの条件を満たす場合にSTR機能は有効です。そうでないときは、本機能は無効です。使用する拡張カードがSTR機能をサポートしない場合には、この項目を初期設定の[Disabled(無効)] にしておいてください。設定オプション：[Auto] [Disabled]

Suspend Mode [Disabled]

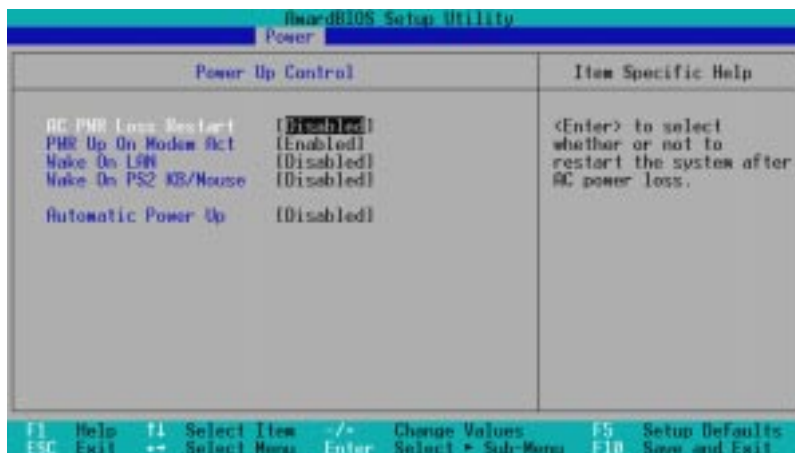
システムがサスペンドモードに入るまでの時間を設定します。設定オプション：[Disabled] [1 2 Min] [2 3 Min] [4 5 Min] [8 9 Min] [20 Min]... [1 Hour]

PWR Button < 4 Secs [Soft off]

[Soft off]に設定すると、ATXスイッチを4秒未満押したとき、システムパワーオフボタンとして使用可能になります。[Suspend]は、ボタンを4秒未満押すことでシステムをスリープモードにする二重の機能を持ちます。設定に関係なく、4秒以上間ATXスイッチを押すと、システムをパワーダウンします。設定オプション：[Soft off] [Suspend]

4. BIOSセットアップ

4.5.1 Power Up Control



AC PWR Loss Restart [Disabled]

システムの電源が切断された後(例: ACプラグが抜かれた)、ACが復帰したときにシステムを再起動するかどうかの設定です。[Disabled]ではシステム電源はオフのまま、[Enabled]ではシステムは再起動します。設定オプション: [Disabled] [Enabled]

PWR Up On Modem Act [Enabled]

コンピュータがソフトオフモード中にモデムがデータを受信したとき、コンピュータを電源オンする機能を指定します。注: コンピューターとアプリケーションが完全に起動するまでは、データの送受信はできません。したがって、一回目では接続できないのです。コンピュータが電源オフの時、外部モデムの電源をオフにし再びオンにするとコンピュータの電源がオンになります。設定オプション: [Disabled] [Enabled]

Wake On LAN [Enabled]

Wake-On-LANは、ネットワークから起動フレーム/信号を受信することで、本システムを起動する機能です。設定オプション: [Disabled] [Enabled]

重要: この機能を利用するには、Wake-On-LAN対応ネットワークインターフェースと+5Vスタンバイ電源に少なくとも720mAを供給できる電源装置が必要です。

4. BIOSセットアップ

Wake On PS2 KB/Mouse [Disabled]

PS2キーボード(スペースキー)やPS2マウス(左クリック)でコンピューターをオンしたい場合には[Enabled]に設定してください。この機能を使用するには、+5VSB端子に少なくとも300 mAを供給できるATX電源が必要です。すべてのシステムがこの条件を満たすとは限らないので、初期設定は[Disabled]です。ここを[Enabled]に設定し、PS2キーボード/マウス操作で電源オンできなかったときは、搭載しているATX電源は本機能をサポートしていません。設定オプション：[Disabled] [Enabled]

Automatic Power Up [Disabled]

自動システム電源オン機能設定です。[Everyday]設定では毎日決まった時間に、[By Date]では日付と時間を指定してシステムの電源オンができます。設定オプション：[Disabled] [Everyday] [By Date]

4. BIOSセットアップ

4.5.2 Hardware Monitor



MB Temperature, CPU Temperature [xxx°C/xxxF]

ボード上のハードウェアモニターは、MB(マザーボード)とCPUの温度を検出することができます。必要な場合にのみ[Ignore(無視)]にセットしてください。

CPU Fan, Power Fan, Chassis Fan Speed [xxxxRPM]

ボード上のハードウェアモニターは、CPUファン、電源ファン、筐体ファンにのスピード(回転/分: RPM)を検出することができます。ファンの存在は自動的に検出されます。必要な場合にのみ[Ignore(無視)]にセットしてください。

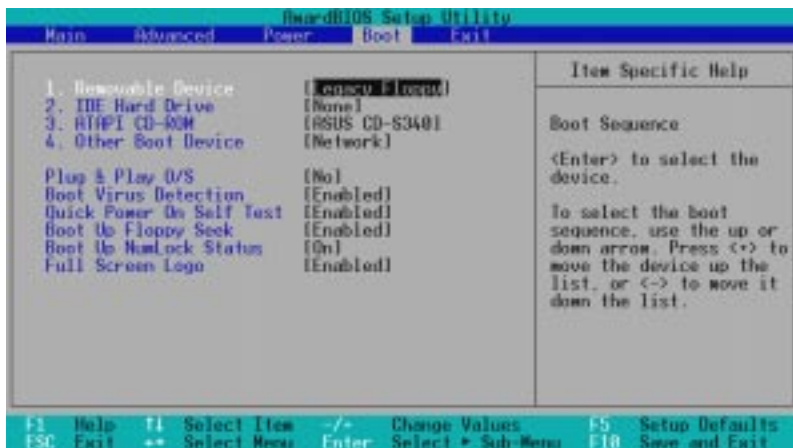
VCORE Voltage, +3.3V Voltage, +5V Voltage, +12V Voltage, -12V Voltage, -5V Voltage [xx.xV]

ボード上のハードウェアモニターは、ボード上の電圧レギュレーターの電圧出力を検出することができます。必要な場合にのみ[Ignore(無視)]にセットしてください。

注: 指定範囲を超えたら、次のようなエラーメッセージが表示されます: 「Hardware Monitor found an error. Enter Power setup menu for details(ハードウェアモニターはエラーを発見しました。Powerセットアップメニューで詳細を確認してください)」。そして、「Press F1 to continue, DEL to enter SETUP(F1を押して進み、DELキーを押してSETUPに入ってください)」と処理を求められます。

4. BIOSセットアップ

4.6 Bootメニュー



Boot Sequence

Bootメニューで、4つの可能な起動機器を上下矢印キーを使用して選択することができます。<+>/<Space>キーでその機器を昇格させることができ、<->キーで降格することができます。機器の昇格か降格により、システム起動の時の優先順位が変わります。設定オプション：[Removable Devices] [IDE Hard Drive] [ATAPI CD-ROM] [Other Boot Device]

Removable Device [Legacy Floppy]

設定オプション：[Legacy Floppy] [LS120] [ZIP-100] [ATAPI MO]

IDE Hard Drive

この項目でIDEハードディスクの起動順序を指定します。Enterキーを押すと、接続されているIDEハードディスクドライブの製品IDを表示します。

ATAPI CD-ROM

この項目で、ATAPI CD-ROMドライブの起動順序を選択します。Enterキーを押すと、接続されているATAPI CD-ROMドライブの製品IDを表示します。

Other Boot Device Select [Network]

設定オプション：[Network] [SCSI Boot Device (SCSI起動機器)]

4. BIOSセットアップ

Plug & Play O/S [No]

PCIバス構成に、BIOSではなく、プラグ&プレイ (PnP) OSを使うように指定できます。[Yes]にすると、割り込みはOSにより割り当てられます。非PnP OSがインストールされている場合や、OSによる割り込み再設定をしたくない場合には、初期設定の[No]を選択してください。設定オプション：[No] [Yes]

Boot Virus Detection [Enabled]

設定オプション：[Disabled] [Enabled]

Quick Power On Self Test [Enabled]

設定オプション：[Disabled] [Enabled]

Boot Up Floppy Seek [Enabled]

設定オプション：[Disabled] [Enabled]

Boot Up NumLock Status [On]

設定オプション：[Off] [On]

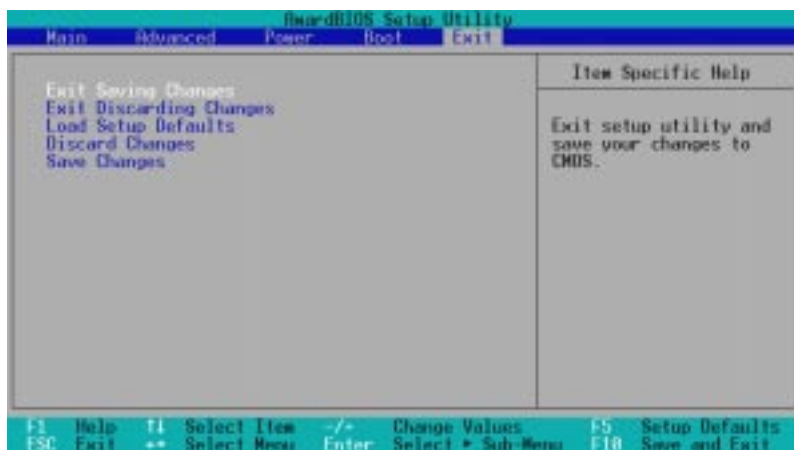
Full Screen Logo [Enabled]

設定オプション：[Disabled] [Enabled]

4. BIOSセットアップ

4.7 Exitメニュー

セットアッププログラムで行った設定・変更は、保存してから終了しないと利用できません。メニューバーから**Exit**を選択すると次のメニューが表示されます：



注：<Esc>キーでこのメニューは終了しません。このメニューを終了するには、オプションを選択するか、<F10>キーを押してください。

Exit Saving Changes

設定を終了したら、Exitメニューからこのオプションを選択し、設定をCMOS RAMに保存してセットアップを終了します。PCの電源がオフでも、CMOS RAMはボード上のバックアップバッテリーにより内容を保持しています。本オプションを選択すると確認を求められます。変更を保存し、終了するため[Yes]を選択してください。

注：設定変更を保存せずにセットアッププログラムを終了しようとする、変更を保存するかどうかの確認メッセージが表示されます。<Enter>押すと保存終了します。

Exit Discarding Changes

設定変更を保存しない場合のみ、このオプションを選択してください。システム日付、時間とパスワード以外の項目を変更したときは、終了前に確認を求められます。

4. BIOSセットアップ

Load Setup Defaults

このオプションを選択すると、各メニューに初期設定値が読み込まれます。このオプションを選択したり<F5>が押されたとき、確認を求められます。初期設定を読み込むには[Yes]を選択してください。**Exit Saving Changes**を選択し保存終了することも、保存前に設定変更することもできません。

Discard Changes

このオプションを選択すると、今回の変更を破棄し、以前に設定した値を復元することができます。選択後には、確認を求められます。[Yes]で、今回の変更を破棄し、以前の値を読み込みます。

Save Changes

このオプションを選択すると、設定を保存しますが、セットアッププログラムは終了しません。他のメニューへ戻り設定を続けることができます。選択すると、設定を保存するかどうかの確認を求められます。[Yes]で不揮発性RAMに設定を保存します。

4. BIOSセットアップ

(このページは空白ページです)

5. ソフトウェアセットアップ

ASUS Smart Motherboard Support CD

注：サポートCDの内容は予告なく変更されることがあります。

サポートCDを使うには、CD-ROMドライブにセットしてください。サポートCDインストールメニューが表示されます。メニューが表示されない場合には、ダブルクリックするか、D:¥SETUP.EXEを実行してください(CD-ROMドライブをドライブD:とします)。

Support CD Main Menu



ナビゲーションボタン解説

Motherboard Infoは、マザーボード、BIOS、CPU情報を表示します。

Browse This CDは、ASUSサポートCDの内容を参照します。

User's Manualは、pdfフォーマットのマザーボードユーザーマニュアルを表示します。

Technical Support Formは、テクニカルサポートを必要とする際に記述する文書書式を表示します。

Read Meは、付加情報を表示します。

Homeは、サポートCDのメインメニューへ移動します(メインメニュー以外で表示)。

ExitでサポートCDを終了します。

Backで一画面戻ります。

5. ソフトウェアセットアップ

ソフトウェアセットアップ内容

注：サポートCDの内容は予告なく変更されることがあります。

5. ソフトウェアセットアップ	77
ASUS Smart Motherboard Support CD.....	77
ソフトウェアセットアップ内容	78
サポートCD内容説明	79
インストール	79
DOS Utility	80
ASUS Contact Information.....	80
Other Useful Information.....	80
Operating Systems.....	81
Windows 98.....	81
5.1 Intel LANDesk Client Manager (LDCM).....	82
5.2 ASUS PC Probe.....	83
5.3 ASUS Update	84
5.4 Driver	85
5.4.1 Network Driver Setup (LAN model only).....	85
5.4.2 VGA Driver Setup	86
5.4.3 Audio Driver Setup (audio model only).....	87
5.5 Other	88
5.5.2 INF Update Utility for 810 Chipset	88
5.5.3 Intel Security Controller Driver	89
5.5.4 YAMAHA S-YXG50	90
5.5.5 Microsoft DirectX 6.0 Driver.....	91
5.5.6 PC-cillin 98 V4.06	92
5.5.7 Adobe Acrobat Reader V4.0	93
5.6 ASUS DMI Utility.....	94
5.7 Flash BIOS Utility (DOS)	95
5.8 Uninstalling Programs	96

5. ソフトウェアセットアップ

サポートCD内容説明

注：サポートCDの内容は予告なく変更されることがあります。

インストール

5.1 LDCM (注：現在のバージョンは、MEWマザーボードをサポートしません。)

Intel LanDesk Client Managerソフトウェアは、ローカルシステムや同一ブリッジアドレスにあるネットワーク上のシステムを監視します。(ユーザーマニュアルが執筆された時点でのLDCMはV3.32で、MEWをサポートしません。今度のバージョンについては販売者に問い合わせてください。)注：ASUS PC Probeと同時に実行できません。

5.2 ASUS PC Probe(注：LDCMと同時に実行できません。)

温度や電圧を監視するシンプルなソフトウェアをインストールします。

5.3 ASUS Update

BIOSアップデートやBIOSファイルのダウンロード作業を容易にするプログラムをインストールします。

5.4 Driver

ボード上の部品を正しく動作させるのに必要なドライバーをインストールします。

5.4.1 Network Driver Setup - Intel 8255x-based PCI Ethernet Adapter (10/100)をインストールします。

5.4.2 SCSI Driver Setup - (本マザーボードでは不要です)

5.4.3 VGA Driver Setup - 810 DC-100 System and Graphics Controller Driverをインストールします。

5.4.4 Audio Driver Setup - Intel(R) 82801AA/AB AC '97 Audio Controller: SigmaTel Codecをインストールします。

5.5 Other

本マザーボードを活用するために必要な付加ソフトウェアやユーティリティをインストールします。

5.5.1 Read Motherboard User's Manual (PDF) - アドビアクロバットPDF形式のMEW User's Manualを読むことができます。(サポートCD作成時の予備としての収録です。アップデートされたユーザーマニュアルはASUSWebから入手してください。)

5.5.2 INF Update Utility for 810 Chipset - このユーティリティは、次の項目についてのINFファイルをWindowsにインストールします：System and Graphics、LPC Interface、SM Bus、PCI Bridge、Bus Master IDE、USB Host、Controllers

5.5.3 Intel Security Controller Driver - セキュリティコントローラをWindows 95/98にインストールします。詳細はインストール時のRelease Notesとインストール最後のReadme Filesを参照してください。

5. ソフトウェアセットアップ

- 5.5.4 YAMAHA S-YXG50** - 拡張オーディオ出力用YAMAHAソフトウェアシンセサイザーとMIDIファイル再生用XGプレーヤーをインストールします。(YAMAHA、Soft Synthesizer、S-YXG50、Midplug、XG studio!はYamaha Corp.の商標です。Copyright 1996-1999 Yamaha Corporation,不許複製)
- 5.5.5 Microsoft DirectX 6.0 Driver** - Microsoft DirectX 6.0ドライバーをWindows 95/98にインストールします。Microsoft DirectXは、マルチメディアアプリケーションの実行に必要です。
- 5.5.6 PC-cillin 98 V4.06** - Trend PC-cillinウイルスプロテクトソフトウェアをインストールします。詳細はオンラインヘルプを見てください。
- 5.5.7 Adobe Acrobat Reader V4.0** - PDFフォーマット文書を閲覧する、Adobe Acrobat Readerソフトウェアをインストールします。本マニュアルの最新バージョン・他国語バージョンは、PDFフォーマットでASUS Webから入手できます。

DOS Utility

5.6 ASUS DMI Configuration Utility

DMI環境構成ユーティリティの使用法に関する情報を表示します。本ユーティリティは、サポートCDのルートディレクトリーの下、DMIフォルダーの中にあります。

5.7 Flash BIOS Utility (DOS Version)

Flash BIOS utility (AFLASH.EXE)の情報を示します。MS-DOSモードで再起動し、サポートCDのAFLASHフォルダーからaflashを入力してください。

ASUS Contact Information

このページには、マーケティング・技術サポート情報を表示します。本ユーザーマニュアル中の記載と同様です。

Other Useful Information

5.8 Uninstalling Programs

Windows 98でアンインストールする情報です。

5. ソフトウェアセットアップ

Operating Systems

ASUSマザーボードは複数のOSに対応していますが、ここでの記述はMicrosoft Windows 98で説明します。ハードウェアについて最高の互換性を達成するため、最新のOS、アップデートを使用してください。Windows 95では、OSR 2.0およびそれ以降が必要です。Windows NT 4.0では、Service Pack 3.0およびそれ以降が必要です。

Windows 98

Windows 98を初めてインストールするときのことです。再起動するとプラグ&プレイでハードウェアを追加するウィザードになり、ドライバーをシステムレジストリからインストールしようとするかもしれませんが、そこで、再起動を求められたらいいえを選択し、続いてここで説明する通常のセットアップ手順を続けてください。

重要：Windowsがボード上のVGAチップと互換性のない古いディスプレイドライバーをロードする可能性があるため、最初の再起動を求められたときはいいえを選択してください。ASUS Support CDやASUSベンダー、ASUS webから入手したドライバーを使用してください。

注：マザーボード設定にはいろいろあり、拡張カードなどもユーザーにより異なるので、以下の説明はあくまでも参考です。実際のシステムの場合と異なるかもしれません。

5. ソフトウェアセットアップ

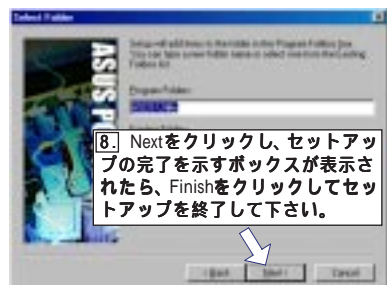
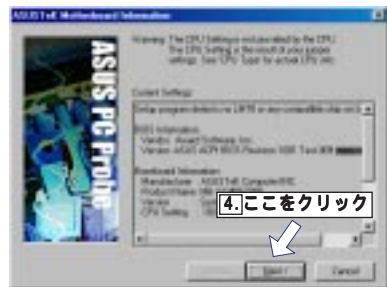
5.1 Intel LANDesk Client Manager (LDCM)

(本ユーザーマニュアル作成時のLDCMはV3.32で、本マザーボードをサポートしません。最新バージョンについては販売者に確認してください。)

5. ソフトウェアセットアップ

5.2 ASUS PC Probe

CD-ROMドライブにサポートCDをセットするか、マイコンピュータのCDドライブアイコンをダブルクリックしてください。



5. SW/セットアップ
ASUS PC Probe

5. ソフトウェアセットアップ

5.3 ASUS Update

CD-ROMドライブにサポートCDをセットするか、マイコンピュータのCDドライブアイコンをダブルクリックしてください。



5. SWセットアップ
ASUS Update

5. ソフトウェアセットアップ

5.4 Driver

5.4.1 Network Driver Setup(LANモデルのみ)

CD-ROMドライブにサポートCDをセットするか、**マイコンピュータ**のCDドライブアイコンをダブルクリックしてください。



注：イーサネットドライバーの所在を求められることがあります。その場合には、「d:¥lan」を入力してください(CD-ROMがdドライブのとき)。

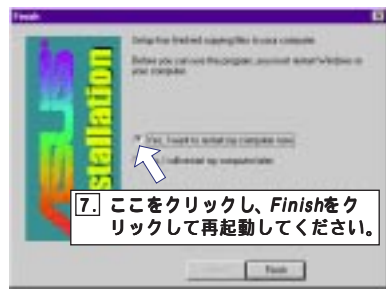
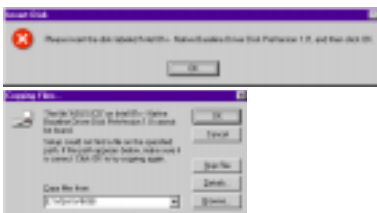
5. ソフトウェアセットアップ

5.4.2 VGA Driver Setup

CD-ROMドライブにサポートCDをセットするか、マイコンピュータのCDドライブアイコンをダブルクリックしてください。



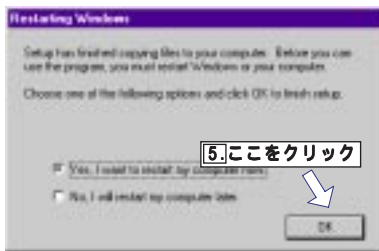
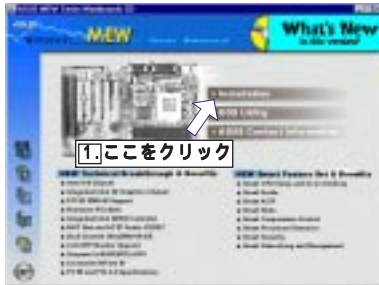
注：ドライバーの所在を求められたら、パス「d:\vga\win98」を指定してください(CD-ROMがドライブで、OSがwin98のとき)。



5. ソフトウェアセットアップ

5.4.3 Audio Driver Setup(オーディオモデルのみ)

CD-ROMドライブにサポートCDをセットするか、マイコンピュータのCDドライブアイコンをダブルクリックしてください。

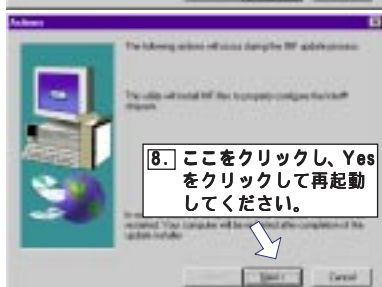
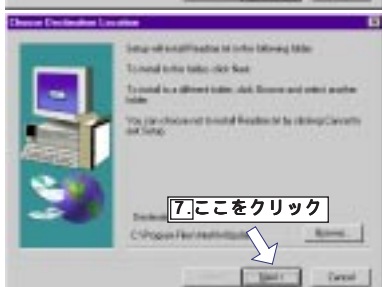
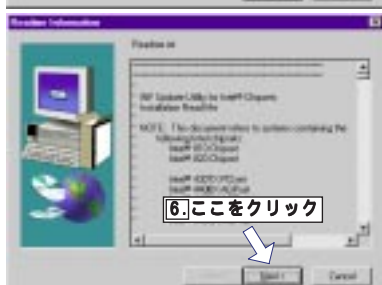
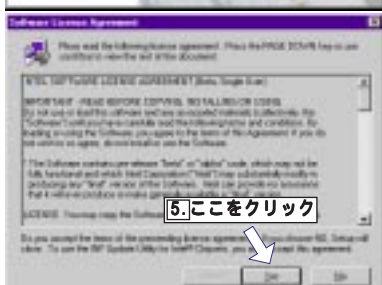
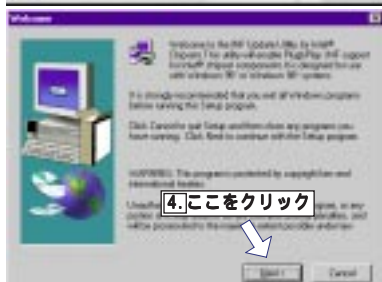
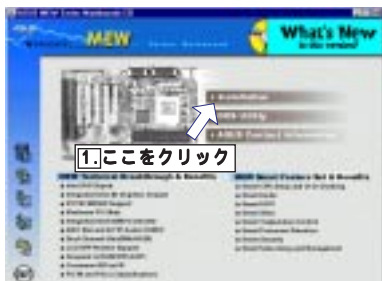


5. ソフトウェアセットアップ

5.5 Other

5.5.2 INF Update Utility for 810 Chipset

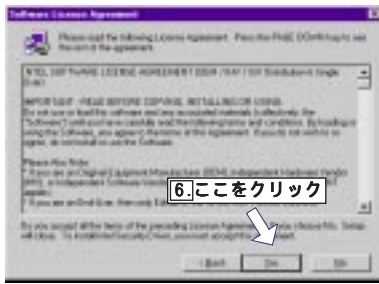
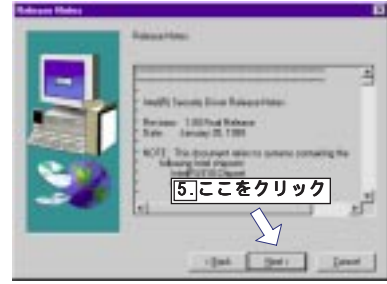
CD-ROMドライブにサポートCDをセットするか、マイコンピュータのCDドライブアイコンをダブルクリックしてください。



5. ソフトウェアセットアップ

5.5.3 Intel Security Controller Driver

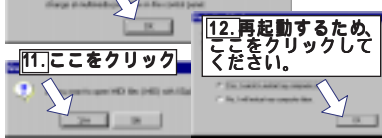
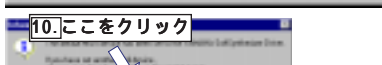
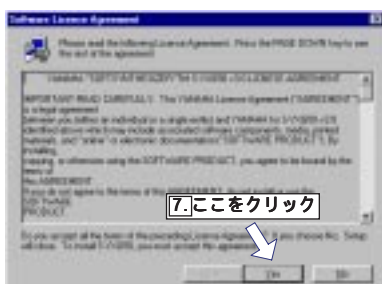
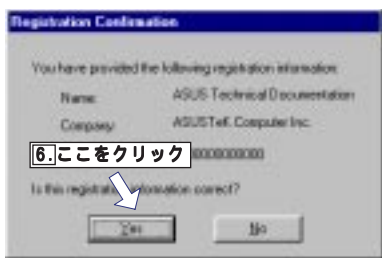
CD-ROMドライブにサポートCDをセットするか、マイコンピュータのCDドライブアイコンをダブルクリックしてください。(ここで示さない手順1はセットアップメニューです)



5. ソフトウェアセットアップ

5.5.4 YAMAHA S-YXG50

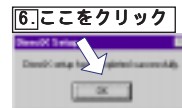
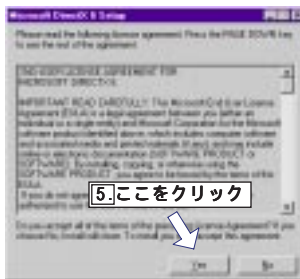
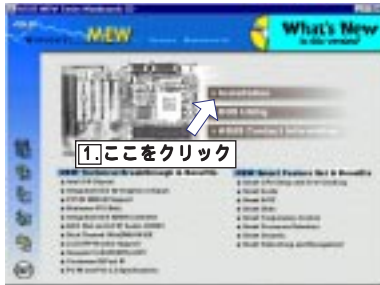
CD-ROMドライブにサポートCDをセットするか、マイコンピュータのCDドライブアイコンをダブルクリックしてください。(ここで示さない手順はセットアップメニューです)



5. ソフトウェアセットアップ

5.5.5 Microsoft DirectX 6.0 Driver

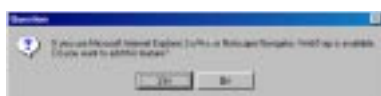
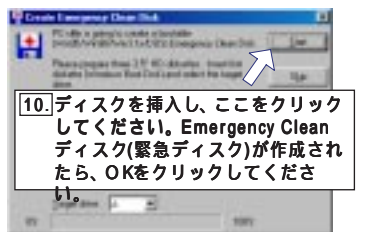
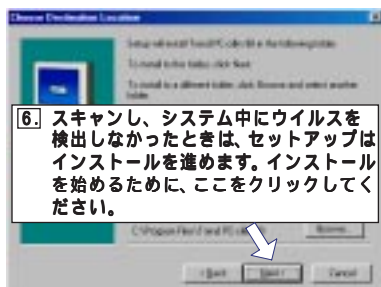
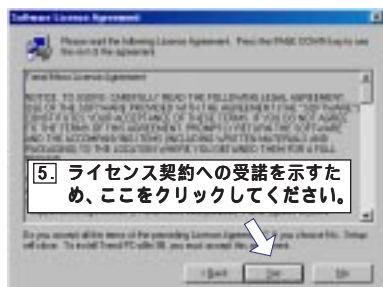
CD-ROMドライブにサポートCDをセットするか、マイコンピュータのCDドライブアイコンをダブルクリックしてください。



5. ソフトウェアセットアップ

5.5.6 PC-cillin 98 V4.06

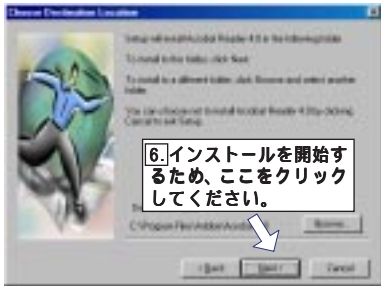
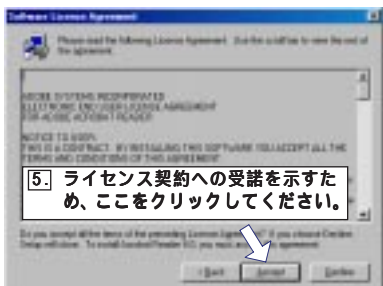
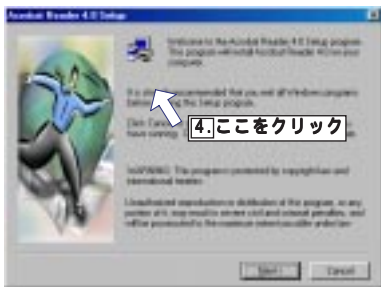
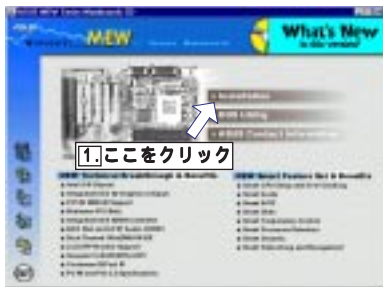
CD-ROMドライブにサポートCDをセットするか、マイコンピュータのCDドライブアイコンをダブルクリックしてください。(ここで示さない手順1・2はセットアップとインストールメニューです)



5. ソフトウェアセットアップ

5.5.7 Adobe Acrobat Reader V4.0

CD-ROMドライブにサポートCDをセットするか、マイコンピュータのCDドライブアイコンをダブルクリックしてください。

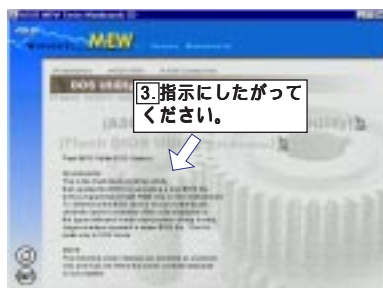
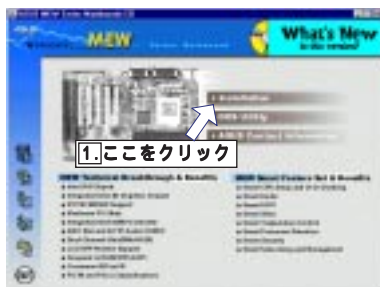


5. SWセットアップ
Acrobat Reader

5. ソフトウェアセットアップ

5.6 ASUS DMI Utility

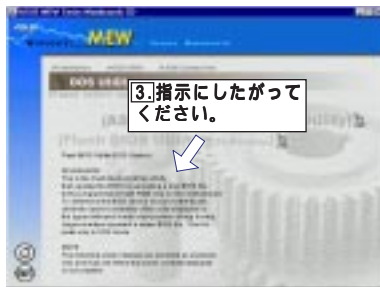
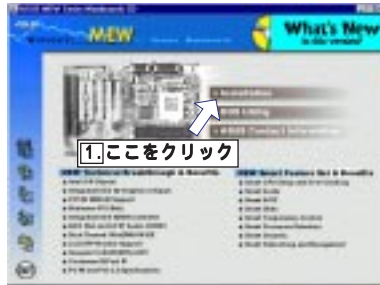
CD-ROMドライブにサポートCDをセットするか、マイコンピュータのCDドライブアイコンをダブルクリックしてください。



5. ソフトウェアセットアップ

5.7 Flash BIOS Utility (DOS)

CD-ROMドライブにサポートCDをセットするか、マイコンピュータのCDドライブアイコンをダブルクリックしてください。



5. ソフトウェアセットアップ

5.8 Uninstalling Programs

プログラムの追加と削除はWindowsの機能です。プログラム自体にアンインストールプログラムがない場合には、このWindowsの機能を利用してください。

1. ここをダブルクリックし、プログラムの追加と削除ダイアログボックスを表示してください。

2. 削除したいプログラムを選択し、ここをクリックしてください。

3. ここをクリック

6. ソフトウェアリファレンス



6. ソフトウェアリファレンス

ソフトウェアリファレンス内容

6. ソフトウェアリファレンス	97
6.1 ASUS PC Probe	99
ASUS PC Probeの起動	99
ASUS PC Probeの使用	100
Monitoring.....	100
Information.....	101
Utility	102
ASUS PC Probe Task Bar Icon.....	103
6.2 ASUS Update	105
6.3 Display Properties.....	107
General	107
Adapter	107
Monitor	108
Performance	108
Color Management.....	108
Information.....	109
Color (Desktop).....	109
Color (Direct3D/Game).....	109
Display.....	110
Display (2).....	110
6.4 YAMAHA S-YXG50	111
起動方法	111
S-YXG50のセットアップ	111
XGplayer	111
6.5 Desktop Management Interface (DMI).....	113
ASUS DMI Configuration Utilityの紹介	113
ASUS DMI Configuration Utilityの起動	113
ASUS DMI Configuration Utilityの使用法	114
注意	114
6.6 ハードウェア情報	116

他のソフトウェアやユーティリティの詳細は、プログラムのオンラインヘルプや付属説明ファイルを参照してください。

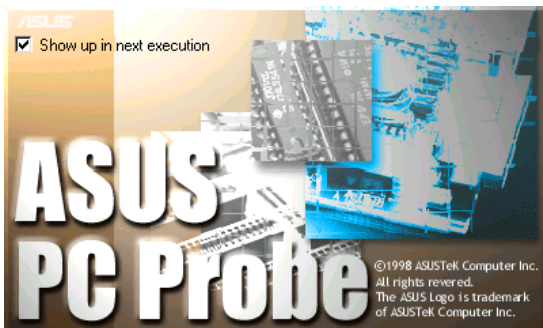
6. ソフトウェアリファレンス

6.1 ASUS PC Probe


ASUS PC Probeは、ファン回転、電圧、温度などのシステム部品を監視する便利なユーティリティです。ハードディスク容量、メモリー使用量、CPUタイプ/スピードや内部/外部周波数などの有益な情報を、DMIを通してチェックするユーティリティも搭載しています。

ASUS PC Probeの起動

ASUS PC Probeが起動すると、起動画面が表示され、起動時にこの画面を表示するかしないかを選択することができます。この起動画面を表示したくない場合には、**Show up in next execution**チェックボックスのチェックを外してください。



ASUS PC Probeを実行するには、「スタート」 - 「プログラム」 - 「ASUS Utility」 - 「Probe Vx.xx」を選択してください。

ASUS PC Probe実行中は、PC Probeアイコン  がタスクバーのシステムトレイに表示されます。そのアイコンをクリックすると、PCの状態を参照することができます。



6. ソフトウェアリファレンス

ASUS PC Probeの使用 Monitoring

Monitor Summary

監視内容の要約を示します。



Temperature Monitor

PCの温度を示します。

Temperature Warning 閾値調整
(閾値レベル増加はスライダーを上へ、
閾値レベル低下はスライダーを下へ)



Fan Monitor

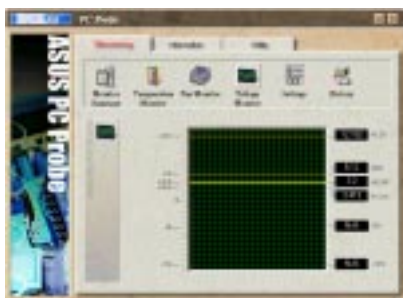
PCのファン回転を示します。

Fan Warning 閾値調整
(閾値レベル増加はスライダーを上へ、
閾値レベル低下はスライダーを下へ)



Voltage Monitor

PCの電圧を示します。



6. ソフトウェアリファレンス

Settings

閾値レベル・ポーリング間隔の設定、PC温度・ファン回転と電圧管理のリフレッシュタイムを設定できます。



History

日付、時間などにより、PC部品の監視を記録できます。



Information

Hard Drives

PCハードディスクドライブの空き容量やファイルアロケーションテーブル、ファイルシステムを表示します。



Memory

PCのメモリーロード、メモリー使用、ページングなどを表示します。



6. ソフトウェアリファレンス

Device Summary

PC中の機器について要約を示します。



DMI Explorer

CPUタイプ、CPUスピード、内部/外部周波数、メモリーサイズのような、PC関連情報を表示します。



Utility

ASUS Probeモジュールの外部プログラムを実行できます。プログラムを実行するには、Execute Programをクリックしてください。



6. ソフトウェアリファレンス

ASUS PC Probe Task Bar Icon

PC Probeアイコンを右クリックすると、ASUS PC Probeを開く、終了する、監視を休止する、再開するなどを選択できるメニューが表示されます。



ASUS PC Probeがエラーを検出すると、ASUS PC Probeアイコンが赤色に変わり、PCスピーカーはピープ音を発し、ASUS PC Probeモニターが表示されます。



6. ソフトウェアリファレンス

(このページは空白ページです)

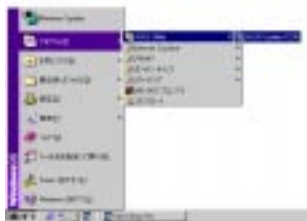
6. ソフトウェアリファレンス

6.2 ASUS Update

ASUS Updateは、マザーボードBIOSや他のドライバーをアップデートするユーティリティです。このプログラムを使いインターネットからファイルをダウンロードするには、インターネットサービスプロバイダを通し、正しくインターネットに接続されていないとなりません。

ASUS Updateの起動

起動するには、「スタート」 - 「プログラム」 - 「ASUS Utility」 - 「ASUS Update V2.00」を選択してください。



アップデート方法を選択します：

Update BIOS from local diskで、ローカルディスク上のBIOSファイルを指定することができます。

Update BIOS/Driver from Internetで、インターネットから自動的に最新のBIOSファイルをダウンロードし、アップデートプロセスを起動します。

Download BIOS/Driver from Internetで、後にアップデートできるようにBIOSファイルをダウンロードすることができます。

Select an internet site

最も近いWebを選択するか、Auto Selectを選択してください。



Updating from local disk

Update BIOS from local diskを選択したら、ファイルの所在を求められます。



6. ソフトウェアリファレンス

BIOSのアップデート作業を進めるため、動作中のアプリケーションを閉じるよう求められます。



6. ソフトウェアリファレンス

6.3 Display Properties

本マザーボード内蔵の2D/3D AGP VGAは、プロ級グラフィックスデザイン、ゲーム、学習、ビジネスアプリケーションをサポートします。

注：システム構成、部品とオプションにより、実際の画像が以下に示すものとは異なることがあります。

プロパティダイアログボックスを開くには、デスクトップ上で右クリックし、「プロパティ」-「設定」-「Advanced」を選択します。

General

ディスプレイボックスが、選択されたモニターの現在フォントサイズを表示します。異なるフォントサイズを使うには、矢印をクリックし、使用したいフォントサイズをクリックしてください。

Compatibility boxが表示され、コンピューターを再起動することなく設定変更を適用するかどうか求められます。注：再起動しないと変更が反映されないプログラムがあります。この問題を解決するには、プログラムを閉じ、色設定を変更し、再びプログラムを開いてください。



Adapter

使用しているディスプレイアダプターを表示します。新しいディスプレイアダプターにソフトウェアをインストールするには、Change(変更)をクリックしてください。



6. ソフトウェアリファレンス

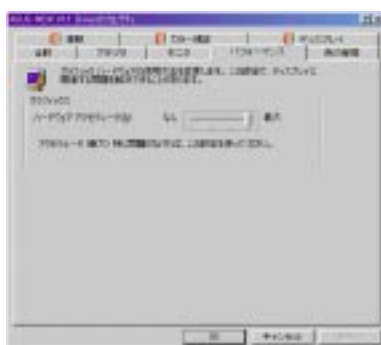
Monitor

使用しているモニターを表示します。新しいモニターにソフトウェアをインストールするには、Change (変更) をクリックしてください。



Performance

グラフィックスハードウェアの加速度を指定します。最大加速は、多くの場合推薦されます。グラフィックス高速化が原因であると思われる問題が発生したら、問題のない最高設定に変更してください。



Color Management

モニターに関連したすべての色プロファイルに記載します。アクティブプロファイルにしたいプロファイルをクリックしてください。そうでない場合には、初期設定値プロファイルがアクティブプロファイルです。



6. ソフトウェアリファレンス

Information

チップセット、メモリー、BIOS、ドライバーのような、グラフィックス機器の情報を表示します。インターネットリンクは、ASUS Webページにアクセスでき、最新ドライバーや情報を入手するのに便利です。



Color (Desktop)

ディスプレイ品質を調整することができます。ガンマ補正は、16ビット色、24ビット色 (true color, 16.7M色) モードでのみ有効です。16ビット色と8ビット色 (standard color, 256色) モードでは、ガンマ補正機能はサポートされません。



Color (Direct3D/Game)

デスクトップ色調整と同じですが、これは direct3Dアプリケーションとゲームに適用されます。



6. ソフトウェアリファレンス

Display

画面位置、サイズとリフレッシュレートを調整することができます。



Change current refresh rate

現在表示中の解像度でのリフレッシュレートを調整することができます。

Change refresh rate

各解像度・色設定でリフレッシュレートを調整することができます。

Display (2)

出力装置を選択できます - PC MonitorまたはDigital Flat Panel (DFP)

注 : DFPは、1024x768以下の解像度でのみ機能します。



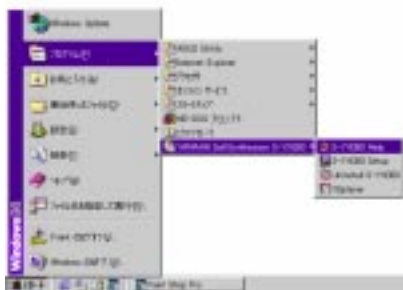
6. ソフトウェアリファレンス

6.4 YAMAHA S-YXG50

本サポートCDには、Yamaha's Software SynthesizerとMIDI playerが付属しています。

起動方法

「スタート」-「プログラム」-「S-YXG50 Setup」を選択して、ソフトウェアシンセサイザーを起動することができます。Yamaha MIDI playerは、「スタート」-「プログラム」-「XGplayer」で起動します。



S-YXG50のセットアップ

Yamaha S-YXG50ソフトウェアシンセサイザーには多くの詳細設定があります。このユーティリティの使用法に関してS-YXG50ヘルプを参照してください。



XGplayer

Yamaha XGplayerで、付属MIDIファイルや他の *.mid/*.rmi ファイルを強力に多彩に再生することができます。このユーティリティの使用法に関して、S-YXG50ヘルプを参照してください。



6. ソフトウェアリファレンス

(このページは空白ページです)

6. ソフトウェアリファレンス

6.5 Desktop Management Interface (DMI)

ASUS DMI Configuration Utilityの紹介

このマザーボードには、BIOSレベルでDMIをサポートし、Management Information Format Database (MIFD) を維持するためのDMI環境構成ユーティリティが付属しています。DMIは、システムにとって重要なCPUのタイプ、CPUスピード、内部/外部クロックやメモリー容量を自動的に認識し、記憶することができます。BIOSはできるだけ多くのシステム情報を検出し、それらの集められた情報をマザーボード上のフラッシュEPROMの4KBブロックに保存し、DMIがこのデータベースを利用できるようにします。他のBIOSソフトウェアと違って、このマザーボード上のBIOSはPnPと同様の技術により、BIOSを完全に書き換えることなくDMI情報を編集/変更することを可能にしています。このDMI Configuration Utilityにより、システムインテグレーターがエンドユーザーは、シリアル番号、設定情報、ベンダー情報などをMIFDに書き加えることができます。BIOSはこれらの情報を検出できないため、手動でDMI Configuration UtilityによってMIFDに書き込む必要があります。DMI Configuration Utilityは、PnPと同様の信頼性により全BIOSをアップデートする際の失敗を防ぎます。

ASUS DMI Configuration Utilityの起動

DMI Configuration Utility (DMICFG2.EXE) はリアルモードで実行される必要があります。メモリーに少なくとも180Kが必要です。HIMEM.SYS (Windowsで必要) などのメモリーマネージャーをインストールしないでください。AUTOEXEC.BATやCONFIG.SYSファイルのないシステムディスクセットから起動してください。または、CONFIG.SYS中のHIMEM.SYSをremで無効にするか、起動時に<Shift> + <F5> を押してAUTOEXEC.BATやCONFIG.SYSをスキップしてください。

1. Windowsで、ハードディスクドライブにDMICFG2.EXEをコピーしてください。
2. コンピューターを再起動し、起動時に<Shift> + <F5> キーを押してsafe modeコマンドプロンプトに入ってください。
3. DMICFG2.EXEのあるディレクトリーへ移動します。
4. DMICFG2と入力し、<Enter>キーを押してください。

6. ソフトウェアリファレンス

ASUS DMI Configuration Utilityの使用法

注：ここで掲載する画面は、あくまでも例です。実際にお使いの場合と異なるところがあるかもしれません。

Edit DMI (or delete)



トップメニューでは左右矢印キーを使い項目を選択します。上下矢印キーで左にある項目を選択します。画面の下部に操作キーが表示されています。編集した項目を画面右から選択し、<Enter>キーを押してください。選択された項目は反転表示されています。青字は編集可能項目です。オレンジ色の文字は、自動検出されたもので編集できません。Press [ENTER] for detailは、ポップアップメニューが表示され、<+/->キーで設定を変更できることを意味しています。<Enter>キーは保存して終了、<ESC>キーは保存せずに終了します。

設定を変更したら<ESC>キーを押してください。YかNの入力を求められます。Yを入力すると画面左に戻り、変更が保存されます。Nを入力すると保存せず画面左に戻ります。編集をしないで<ESC>キーを押すと画面左に戻りますが、メッセージは表示されません。

注意

「*** BIOS Auto Detect ***」はBIOSが自動検出した項目です。

「*** User Modified ***」はユーザーが変更した項目です。



6. ソフトウェアリファレンス

Save MIFD



ドライブとパスを指定してMIFDを保存します(通常はフラッシュROMに保存します)。保存をキャンセルしたい場合には、ESCキーを押してください。Bad File Nameと表示され保存が中止されます。

Load MIFD



ドライブ、パス、ファイル名を入力すると、ディスク中のファイルをメモリーへロードすることができます。

Load BIOS Defaults



MIFDファイルからBIOS初期設定を読み込みます。ユーザーの変更したデータは消去されます。フラッシュBIOSに初期設定を読み込むため、コンピューターを再起動してください。

6. ソフトウェアリファレンス

6.6 ハードウェア情報

マザーボードの画像をクリックすると、3つの項目を選択することができます。本マザーボードについての情報を知ることができます。Feature、Component、Jumper Settingsの中から知りたい項目をクリックしてください。

注：ハードウェア情報は、作成時の情報により実際と異なる可能性があります。ここに、最も早い(最も古い)ものから、最新の情報の順序を示します：Support CD Screens、Support CD PDF、Printed User's Manual、ASUS Web Site PDF。



7. APPENDIX

7.1 用語集

AGP (Accelerated Graphics Port)

現在主流となっているPC上で高性能3Dグラフィックスを使用できるようにするインターフェース仕様です。AGPは、グラフィックスコントローラーがシステムメモリーに直接アクセスすることにより、PCIよりも高速な処理が実現します。

Bus	Bus Frequency	Bus Speed
PCI	33MHz	133MB/s
AGP 1X	66MHz	200-300MB/s
AGP 2X	133MHz	528MB/s
AGP 4X	266MHz	1 GB/s

AUTOEXEC.BAT

AUTOEXEC.BATは、コンピューターの電源がオンになったり再起動した際に、DOSにより自動的に実行される、特定目的のために使用するファイルです。このファイルには、特定のソフトウェアや周辺機器を動作させるのに重要なコマンドが含まれています。Windows 95以降では、独自のスタート時に起動するファイルを持っているのでAUTOEXEC.BATファイルは使用されないか、ファイル中のコマンドは無視される場合があります。

BIOS (Basic Input/Output System : 基本入/出力システム)

BIOSは、メモリーやディスク、ディスプレイアダプターのような部品間で、どのようにコンピューターがデータを転送するか、に影響する一連のプログラムです。BIOSプログラムは、コンピューターに搭載されたROM内に格納されています。BIOSのパラメーターは、BIOSセットアッププログラムでユーザーでも簡単に設定することができます。BIOSは、当社の提供するユーティリティプログラムを使い、新しいBIOSファイルをEEPROMにコピーしてアップデートすることができます。

Bit (Binary Digit : バイナリ数)

コンピューターで使用されるデータの最小単位です。1ビットは、0と1のどちらかです。

Boot (ブート・起動)

ブートとは、コンピューターがオペレーティングシステムをシステムメモリーに読み込んで動作を始めることです。マニュアルに「システムをブート(起動)してください」という指示がある場合には、コンピューターの電源をONにすればよいのです。「リポート(再起動)」は、コンピューターをもう一度起動させることです。Windows 95以降では、「スタート」-「Windowsの終了」-「コンピューターを再起動する」を選択すれば再起動させることができます。

Bus Master IDE (バスマスターIDE)

PIO (Programmable I/O) IDEは、データの読み出しや書き込みをCPUが制御します。バスマスターIDEでは、データの読み出しや書き込みにCPUを必要とはしません。バスマスターIDEモードで使用するには、バスマスターIDEドライバーとバスマスターIDEハードディスクドライブが必要です。

7. APPENDIX

Byte (バイト)

1バイトは、8個の連続したビットで構成されています。1バイトは、英数字や句読点、記号を示すために使用されます。

COM Port

COMは、コンピューターのシリアルポートを示す論理デバイス名です。ポインティングデバイス、モデム、赤外線モジュールなどをCOMポートに接続することができます。各COMポートは、固有のIRQとアドレスを使用します。

CPU (Central Processing Unit : 中央処理装置)

CPUは、時には「プロセッサ」と呼ばれます。まさに、コンピューターの頭脳です。CPUは、メモリー内に格納されたプログラムのコマンドやデータを処理します。現在、ソケット370(Pentium Celeron-PPGA用)、ソケット7(Pentium、AMD、Cyrix、IBM用)、スロット1(Pentium II/III用)、スロット2(Xeon用)プロセッサがあります。

Device Driver

デバイスドライバーは、コンピューターのオペレーティングシステムがVGA、オーディオ、イーサネット、プリンター、モデムのような機器と通信できるようにするプログラムです。

DOS (Disk Operating System)

DOSは、Windowsを含む他のプログラムやアプリケーションソフトウェアが動作する土台となるものです。DOSは、メモリーやCPUの動作、ディスク領域、周辺機器とのアクセスなどのシステムリソースを割り当てる役割を持っています。そのため、DOSはユーザーとコンピューターとの基本的なインターフェースなのです。

Hardware

ハードウェアは、プリンターやモデム、ポインティングデバイスなども含め、コンピューターシステムの物理的部品をさす一般的な用語です。

IDE (Integrated Drive Electronics)

IDE機器は、ドライブ上にあるコントローラーで制御されます。SCSIドライブのように固有のアダプターカードは不要です。UltraDMA/33 IDE機器では、最高33MB/sまでデータ転送することができます。

LPT Port (Line Printer Port)

DOSによってコンピューターのパラレルポートに予約される論理デバイス名です。各LPTポートは、固有のIRQとアドレスを使用します。

MMX

マルチメディアを拡張する57の新しい命令セットで、x86マイクロプロセッサとの互換を保ちつつ、Intel Pentium PP/MT(P55C)やPentiumII(Klamath)CPUなどに組み込まれています。MMX命令セットは、3Dビデオや3Dサウンド、ビデオ会議などのマルチメディアや通信アプリケーションなどのパフォーマンスが改善されます。

7. APPENDIX

PCI Bus (Peripheral Component Interconnect Local Bus)

PCIバスは、32ビットデータバスインターフェースの仕様です。拡張カードでは、PCIが広く採用されて標準になっています。

Peripherals(周辺機器)

周辺機器は、コンピューターのI/Oポートに接続される機器です。周辺機器を使用することで、コンピューターは限界なくさまざまな作業をすることができるのです。

POST (Power On Self Test : 起動時の自己診断テスト)

コンピューターの電源を入れると、最初に自己診断テストPOSTが実行されます。POSTは、システムメモリー、マザーボードの回路、ディスプレイ、キーボード、ディスクドライブ、他のI/O機器をチェックします。

PS/2 Port

PS/2ポートは、IBMのマイクロチャネルアーキテクチャーに基礎を置いています。このアーキテクチャーは、データを16ビット・32ビットで転送します。PS/2マウスやキーボードが、ATXマザーボードで使用できます。

RAID (Redundant Array of Independent Disks)

レイドを使用することで、ミラーリング(データの復旧のため)やパリティ(データ保護のため)、ストライピング(データを分散させ、安全性とパフォーマンスの向上を図る)を使用することができます。レイドを使用するにはレイドカードが必要です。

RAM (Random Access Memory)

RAMには、DRAM(Dynamic RAM)やEDO DRAM(Extended Data Output DRAM)、SDRAM(Synchronous DRAM)などの種類があります。

ROM (Read Only Memory)

ROMは、変更されることのないプログラム(ファームウェアと呼ばれます)を格納するために使用されるメモリーです。フラッシュROM(EEPROM)は、新しいBIOSを書き込むことができます(BIOSのアップデートなど)。

SCSI (Small Computer System Interface)

American National Standards Institute(ANSI)のX3T9.2委員会が決定した高速パラレルインターフェースで、多くの周辺機器を接続することができます。

System Disk

システムディスクは、オペレーティングシステムの中核ファイルを格納したディスクで、オペレーティングシステムを起動するのに使用します。

UltraDMA/33

Ultra DMA/33は、IDEの転送レートを改善する新しい仕様です。従来のPIOモードとは異なり、IDE信号の上昇エッジのみを使用するのではなく、DMA/33では、上昇下降エッジを使用します。そのため、PIO mode 4やDMA mode 2の2倍(16.6MB/s x 2 = 33MB/s)になります。

7. APPENDIX

USB (Universal Serial Bus)

新しい4ピンのシリアルバスで、キーボードやマウス、ジョイスティック、スキャナー、プリンター、モデム/ISDNなどの周辺機器を物理的に取り付ければ自動的に認識し、Plug&Playで使用することができます。USBにより、従来からあったようなコンピュータの背面が周辺機器接続用のケーブルで混雑する状況は解消されるでしょう。